

■CAD製図基準アシストT2

CAD製図基準アシストT2 目次

1. はじめに

1.1. 起動から終了まで

1.1.1. 起動方法	4
1.1.2. 終了方法	7

2. CAD製図基準アシストT2の各機能

2.1. CAD製図基準図面チェック

2.1.1. 「CAD製図基準図面チェック」ダイアログボックスの基本操作	9
2.1.2. チェック項目の内容	21

2.2. レイヤ名編集

2.2.1. 「レイヤ名編集」ダイアログボックスの基本操作	32
2.2.2. 図面ファイルを開く	34
2.2.3. 名前を付けて図面を保存する	34
2.2.4. 上書き保存する	35
2.2.5. レイヤ名の編集を行う	35
2.2.6. 責任主体の変更	37

2.3. CAD製図基準レイヤ振り分け

2.3.1. CAD製図基準レイヤ振り分けの基本操作	39
2.3.2. CAD製図基準レイヤ振り分け	40

2.4. テンプレート編集

2.4.1. 「テンプレート編集」ダイアログボックスの基本操作	45
2.4.2. 図面ファイルを開く	46
2.4.3. 名前を付けて保存する	47
2.4.4. 上書き保存する	47
2.4.5. レイヤの追加／挿入／削除	47
2.4.6. 拡張ペン定義の追加／削除	49

2.5. レイヤリスト作成

2.5.1. 「レイヤリスト」の基本操作	51
2.5.2. Excelインポート・エクスポート	53
2.5.3. 表配置	54

2.6. ファイル名コンバート

2.6.1. 「ファイル名コンバート」ダイアログボックスの基本操作	55
-----------------------------------	----

3. 資料編

3.1. エラーメッセージ解説	57
-----------------	----

1. はじめに

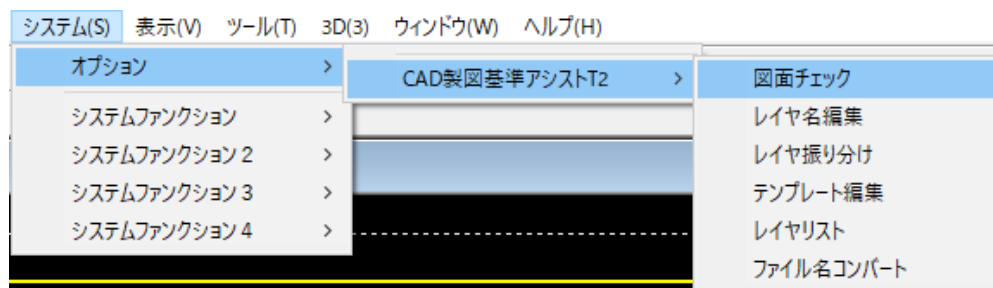
1.1. 起動から終了まで

本システムの起動方法および、起動直後の各種設定、システムの終了方法について説明します。

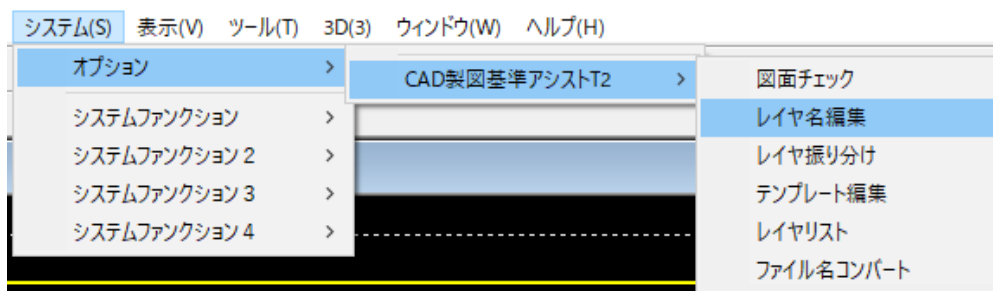
1.1.1. 起動方法

- 1 パソコンの電源を入れ、本オプション対応の BV Family を起動します。
- 2 メニューバーの[システム]をクリックし、以下の各種 CAD 製図基準アシスト T2 のメニューを選択します。

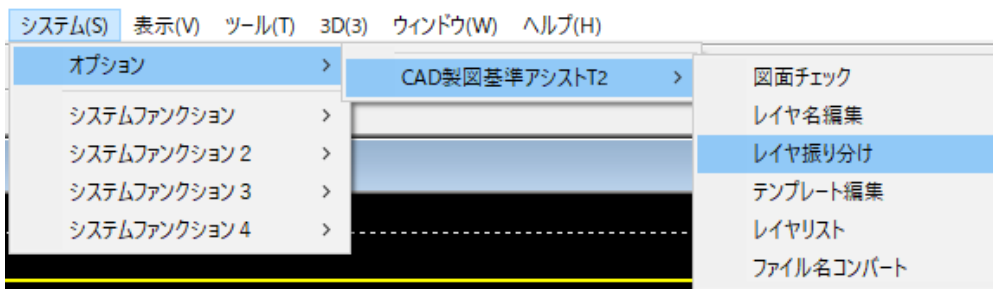
[システム]—[オプション]—[CAD 製図基準アシスト T2]—[図面チェック]



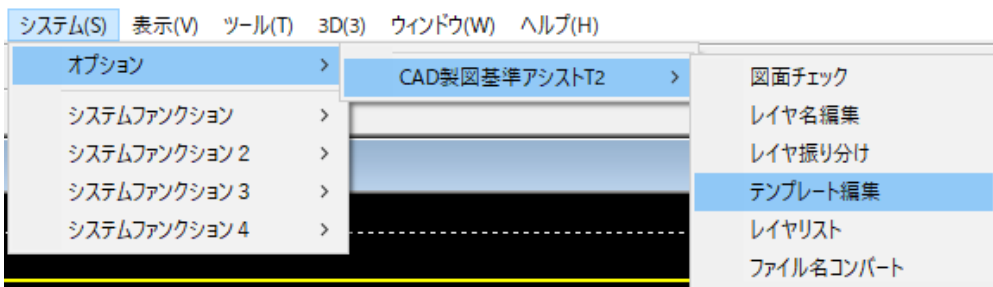
[システム]—[オプション]—[CAD 製図基準アシスト T2]—[レイヤ名編集]



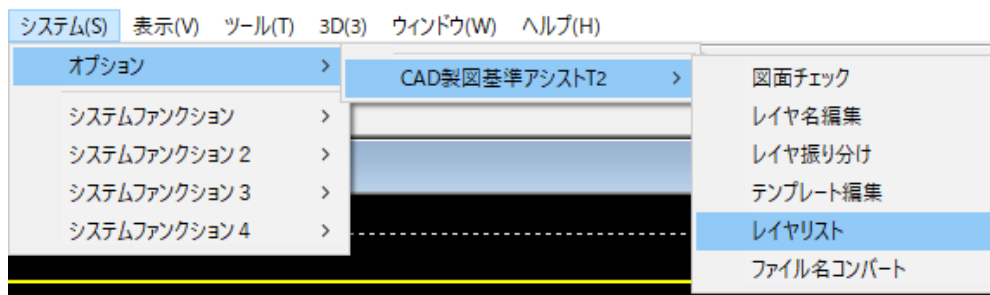
[システム]—[オプション]—[CAD 製図基準アシスト T2]—[レイヤ振り分け]



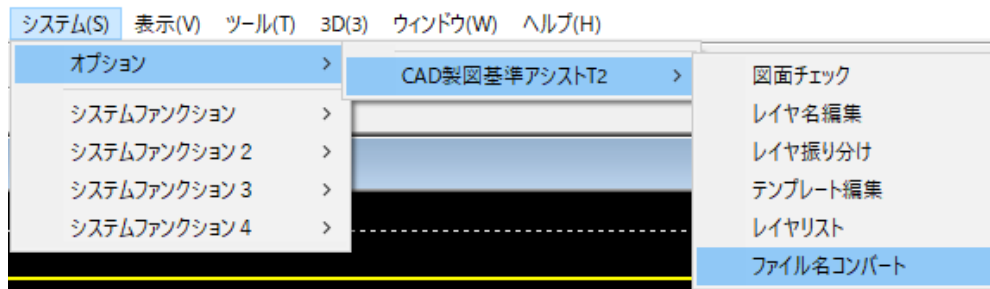
[システム]—[オプション]—[CAD 製図基準アシスト T2]—[テンプレート編集]



[システム]－[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]－[レイヤリスト]



[システム]－[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]－[ファイル名コンバート]



また、メニューバーの[表示]をクリックし、[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]を選択すると、以下のようなツールバーが表示されます。

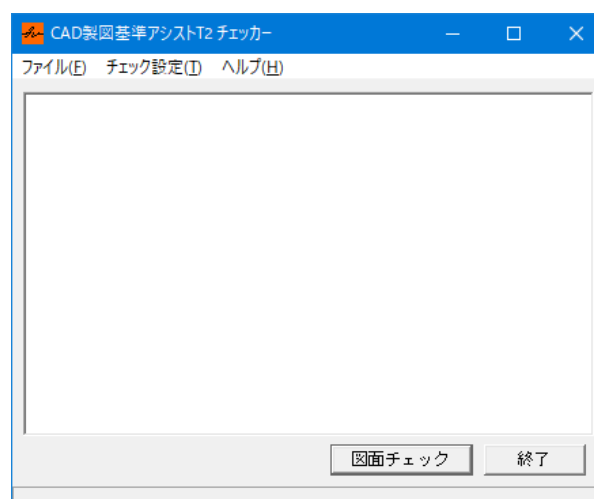


3 各機能の処理画面

メニューバーまたはツールバーより[図面チェック]、[レイヤ名編集]、[レイヤ振り分け]、[テンプレート編集]のいずれかを選択すると本オプションの各機能が起動し、各ダイアログボックスが表示されます。

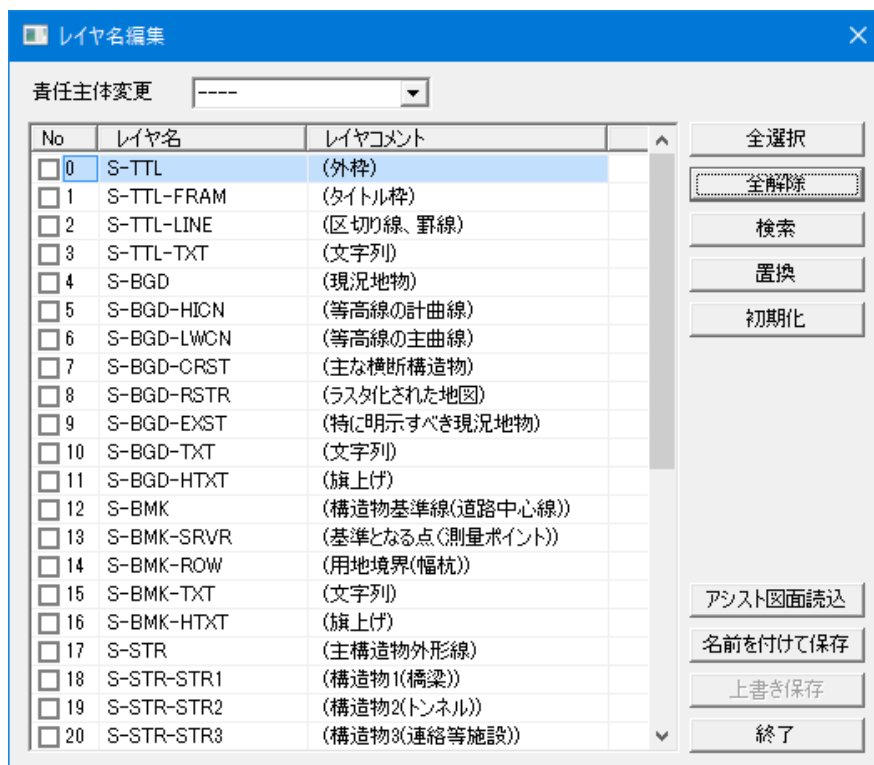
●図面チェック

[システム]－[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]－[図面チェック]を選択
(「CAD 製図基準アシスト T2 チェッカー」ダイアログボックスが表示されます)



●レイヤ名編集

処理を行う図面を開き、[システム]－[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]－[レイヤ名編集]を選択
 (「レイヤ名編集」ダイアログボックスが表示されます)



●レイヤ振り分け

図面をすべて閉じ、[システム]－[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]－[レイヤ振り分け]を選択
 (「CAD 製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスが表示されます)



●テンプレート編集

処理を行うアシスト図面を開き、[システム]－[オプション]－[CAD 製図基準アシスト T2]－[テンプレート編集]を選択（「テンプレート編集」ダイアログボックスが表示されます）

No	レイヤ名	レイヤコメント	UFボタン名称	線色	線種	線幅
0	SDCM-TTL	(外枠)	外枠	黄色	実線	1.4mm
1	SDCM-TTL-FRAM	(タイトル枠)	タイトル枠	黄色	実線	0.5mm
2	SDCM-TTL-LINE	(区切り線、罫線)	区切り線、罫線	白	実線	0.5mm
3	SDCM-TTL-TXT	(文字列)	文字列	白	任意	任意
4	SDCM-BGD	(現況地物)	現況地物	白	実線	0.25mm
5	SDCM-BGD-HIGN	(等高線の計曲線)	等高計曲(等高線の計曲線)	赤	実線	0.25mm
6	SDCM-BGD-LWCN	(等高線の主曲線)	等高主曲(等高線の主曲線)	白	実線	0.13mm
7	SDCM-BGD-CRST	(主な横断構造物)	主横構造物(主な横断構造物)	白	実線	0.25mm
8	SDCM-BGD-EXST	(ラスタ化された地図)	ラスタ地図(ラスタ化された地図)	任意	任意	任意
9	SDCM-BGD-TXT	(特に明示すべき現況地物)	明示現況(特に明示すべき文字列)	白	実線	0.25mm
10	SDCM-BGD-HTXT	(旗上げ)	現況旗上(旗上げ)	白	任意	任意
11	SDCM-BMK	(構造物基準線(道路中心線))	構造基準(構造物基準線)	黄色	一点鎖線	0.13mm
12	SDCM-BMK-SRVR	(基準となる点(測量ポイント))	基準の点(基準となる点(測量ポイント))	緑	実線	0.25mm
13	SDCM-BMK-ROW	(用地境界(幅枕))	用地境界(幅枕)	橙	実線	0.25mm
14	SDCM-BMK-TXT	(文字列)	基準文字(文字列)	白	任意	任意
15	SDCM-BMK-HTXT	(旗上げ)	構造旗上(旗上げ)	白	実線	任意
16	SDCM-STR	(主構造物外形線)	主構外形(主構造物外形線)	赤	実線	0.25mm
17	SDCM-STR-STR1	(構造物1(橋梁))	構1 橋梁(構造物1(橋梁))	赤	実線	0.25mm
18	SDCM-STR-STR2	(構造物2(トンネル))	構2 トンネル(構造物2(トンネル))	青紫	実線	0.25mm
19	SDCM-STR-STR3	(構造物3(連絡等施設))	構3 連絡(構造物3(連絡等施設))	白	実線	0.25mm
20	SDCM-STR-STR4	(構造物4(盛土法面))	構4 盛土(構造物4(盛土法面))	緑	実線	0.25mm
21	SDCM-STR-STR5	(構造物5(切土法面))	構5 切土(構造物5(切土法面))	橙	実線	0.25mm
22	SDCM-STR-STR6	(構造物6(平地))	構6 平地(構造物6(平地))	緑	実線	0.25mm

4 各機能ダイアログボックス内のプルダウンメニュー、またはボタンをクリックすると、各処理へ移行します。

・オリジナルのアシスト図面作成方法

製品に添付されているアシスト図面を利用する方法を紹介します。

1. 参考にしたいアシスト図面を右下の「アシスト図面読込」から読み込み、基本設定、図面設定を修正します。
2. レイヤ名、レイヤコメント、UF ボタン名称（リファレンスマニュアルの Part10 その他 カスタマイズ-ユーザーファンクションウィザードを参照ください）、線色、線種、線幅を修正など、レイヤの削除・追加を行います。
3. 最後に名前を付けて保存すると、オリジナルのアシスト図面になります。

注意事項

製品に添付のアシスト図面を利用してオリジナルのアシスト図面を作成した場合、製品添付のアシスト図面に記憶されているユーザーファンクション内容がそのまま流用されます。ファンクション内容によっては、テンプレート編集で修正した線色、線種、線幅以外の情報も流用されるため、CAD 製図基準アシスト T2 のレイヤ振り分けや図面チェックでオリジナルのアシスト図面をアシスト図面として使用すると、線色、線種、線幅情報が違う内容になることがあります。

その場合は、オリジナルのアシスト図面を読み込んで、ユーザーファンクションウィザードでファンクション内容を修正後、CAD 製図基準アシスト T2 のテンプレート編集画面で、上書き保存か名前を付けて保存を行ってください。

1.1.2. 終了方法

- 1 本オプションを終了する場合、各ダイアログボックス内の[終了]または[閉じる]をクリックします。
CAD システムの作業モードに戻ります。
- 2 CAD システムを終了する場合は、[ファイル]メニュー内の[(CAD システムの)終了]をクリックします。

- ・ CAD システムを終了する前に、必ずオプションを終了してください。

2. CAD製図基準 アシストT2の各機能

2.1. CAD製図基準図面チェック

CAD 製図基準に図面データが適合しているかチェックを行います。

本機能はアシスト図面と併用して動作するものです。

チェックする項目は、ファイル名、輪郭の余白、レイヤ名、色、線種、線幅、文字コード、文字高さです。

各アシスト図面にはユーザーファンクションが定義されていますが、この定義はユーザーファンクションウィザードによってユーザーが自由に編集することができます。（BV CAD/LT を除く）

この各図面のユーザーファンクションの定義を使って各レイヤのデータが、この定義（色、線種、線幅）のとおりになっているかをチェックします。

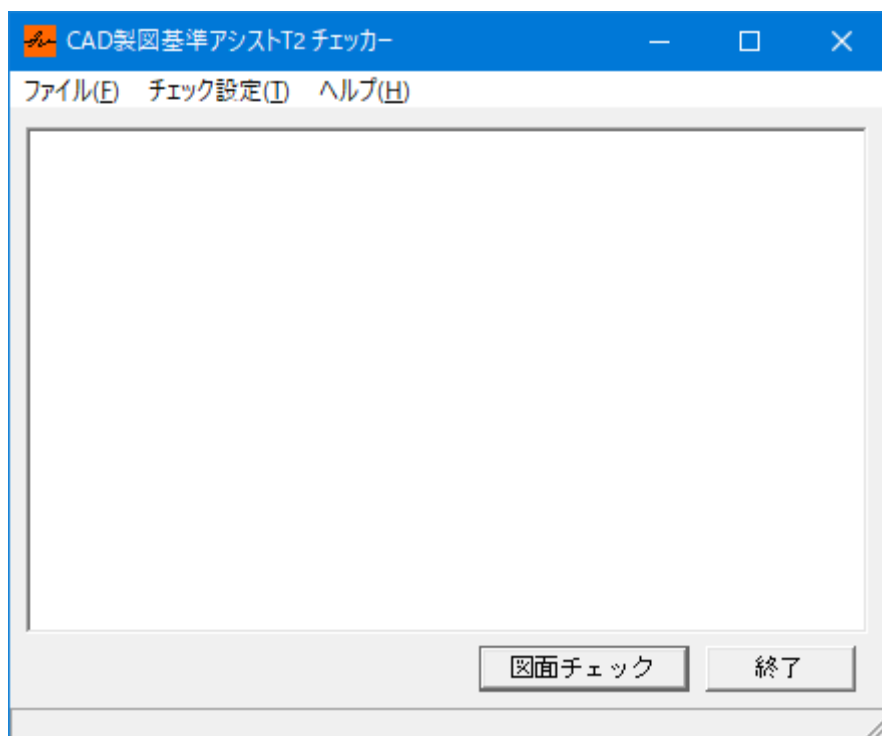
また、レイヤ名については各図面のレイヤ名をそのまま使用しますので、レイヤ名をユーザーが自由に変更した場合にもそのレイヤ名でチェックすることができます。

文字コードについては、初期値とは違うチェックをする場合には文字コード設定ファイルを編集することによって可能です。

以下、本機能の操作方法、チェック項目の設定内容について説明します。

2.1.1. 「CAD製図基準図面チェック」ダイアログボックスの基本操作

- 1 メニューバーの[システム]-[オプション]-[CAD 製図基準アシスト T2]-[図面チェック]をクリックします。
「CAD 製図基準アシスト T2 チェッカー」ダイアログボックスが表示されますので、各種の処理を行います。

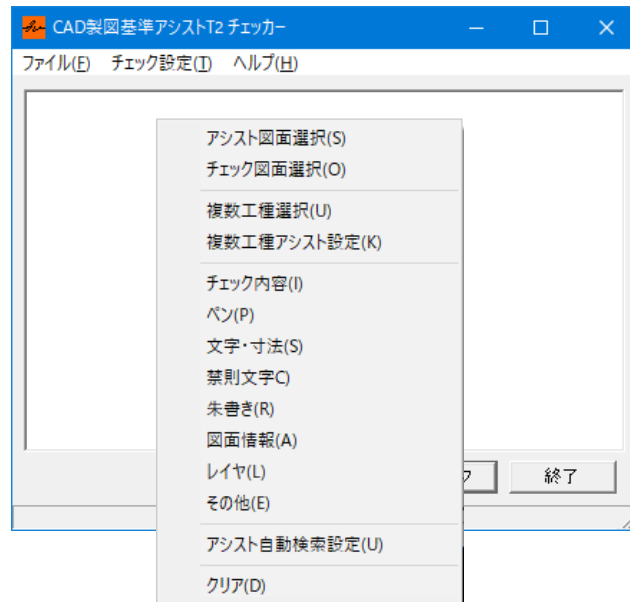


■ ポップアップメニュー

チェック結果表示欄内でマウスの右ボタンをクリックすると、各種のメニューが表示されます。

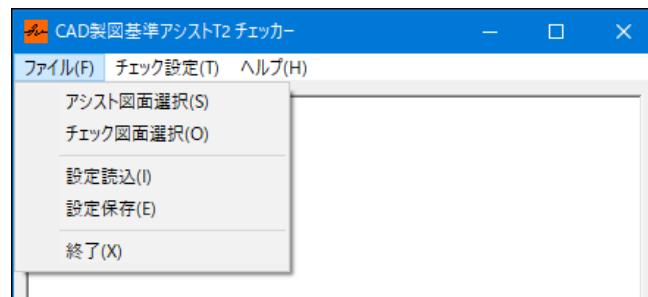
[複数工数選択]、[クリア]以外のメニューは、すべて[ファイル]、[チェック設定]メニュー内の各機能と同様です。

ポップアップメニュー内の[クリア]を選択すると、対象のアシスト図面およびチェック図面の表示をすべて消します。



<プルダウンメニューの各機能>

■ [ファイル]メニュー

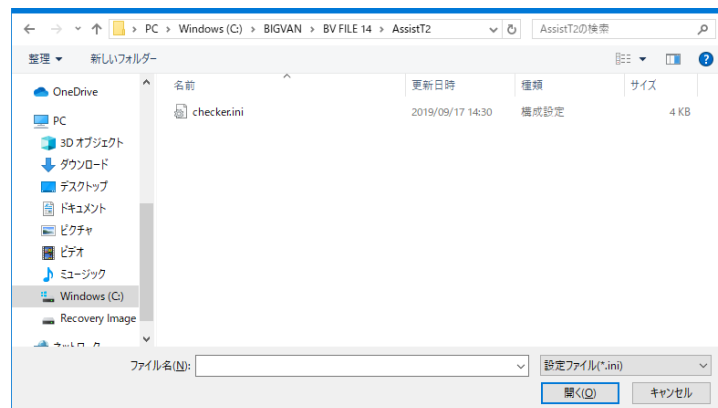


アシスト図面選択： アシスト図面を選択します。

チェック図面選択： チェックする図面を選択します。

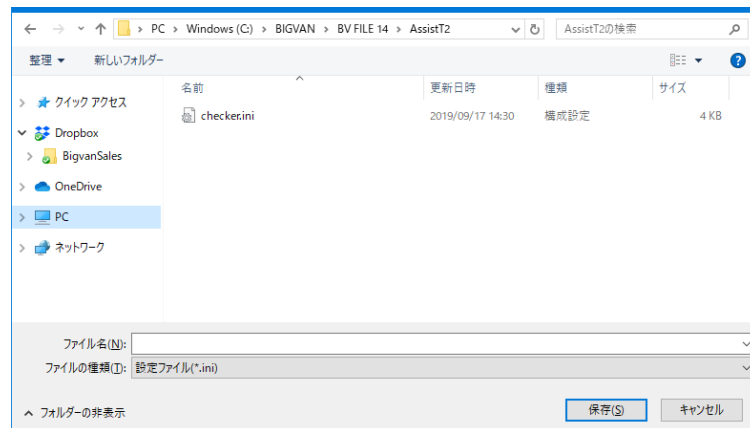
→ **2** および **3** を参照ください。

設定読込： 選択した図面およびチェック設定の内容を読み込みます。「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されますので、設定ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、設定内容が読み込まれます。



設定保存

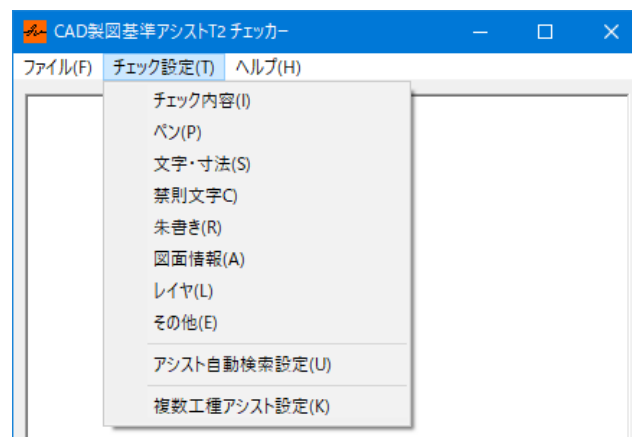
： 選択した図面およびチェック設定の内容を保存します。「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、設定ファイル名を入力し[保存]をクリックすると、確認メッセージが表示されますので[OK]をクリックすると、設定内容が保存されます。



終了

： 本オプションを終了します。

■ [チェック設定]メニュー（各種チェック項目の設定）



プルダウンメニュー[チェック設定]の「ペン」、「文字・寸法」、「禁則文字」、「朱書き」、「図面情報」、「レイヤ」、「その他」をクリックすると、「チェック設定」ダイアログボックスが表示されます。

「アシスト自動検索設定」をクリックすると「アシスト自動検索設定」ダイアログボックスが表示されます。

「複数工種アシスト設定」をクリックすると「複数工種アシスト設定」ダイアログボックスが表示されます。

詳しい操作方法については [「2.1.1. チェック設定の各操作」](#) を参照してください。

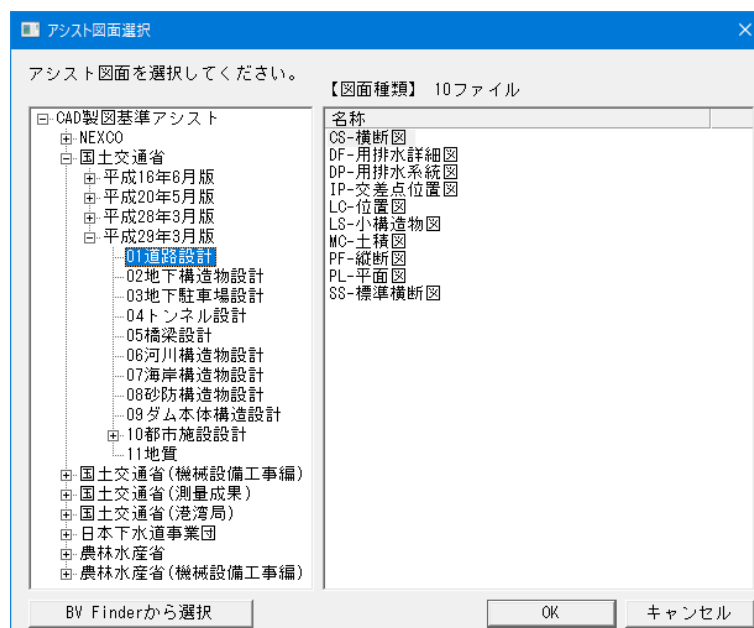
■ヘルプ（[ヘルプ]メニュー）

プルダウンメニュー[ヘルプ]をクリックすると本オプションのバージョン情報が表示されます。

2 アシスト図面を開く

メニューバーの[ファイル]ー[アシスト図面選択]をクリックすると「アシスト図面選択」ダイアログボックスが表示されますので、CAD製図基準アシスト図面を選択します。

また、アシスト図面ファイル以外の図面ファイルは「BV Finder から選択」から選択することができます。

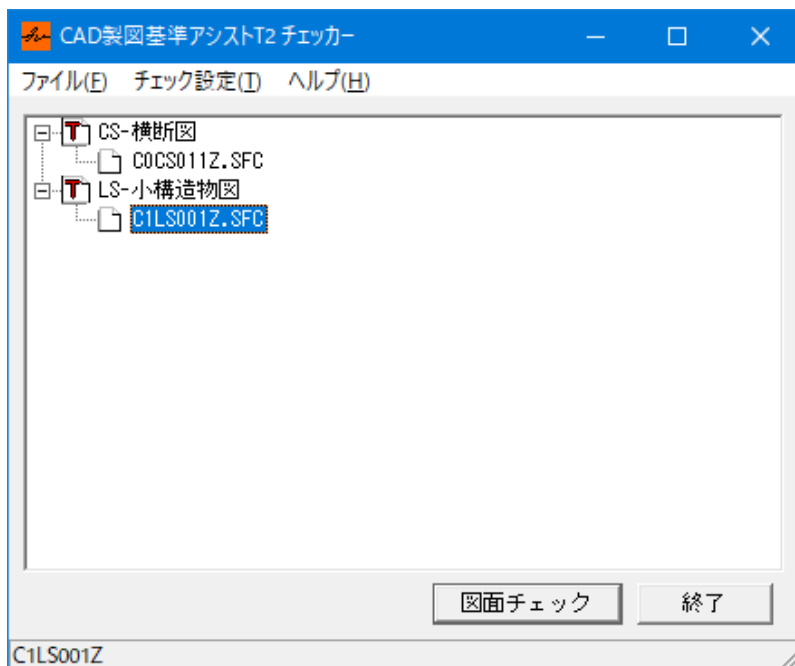


[OK]をクリックすると、「CAD製図基準アシスト T2 チェッカー」ダイアログボックス内に選択した図面ファイル名が表示されます。続けて、同様の操作で他の図面ファイルを選択し開くことができます。

3 チェック図面を開く

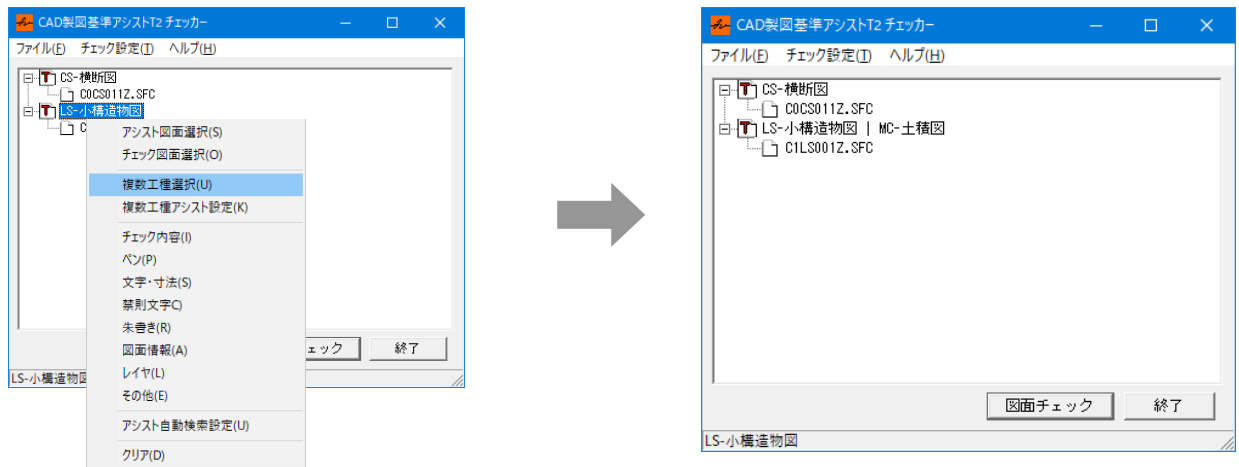
アシスト図面を反転表示した状態でメニューバーの[ファイル]ー[チェック図面選択]をクリックするとBV Finderが表示されます。[Shift]キーまたは[Ctrl]キー＋左クリックで、複数の図面を選択することも可能です。チェック図面を選択し、[開く]をクリックします。

チェック図面として読み込めるファイルの形式は、BVF、BVFZ、DXF、DWG、JWC、JWW、SFC、P21、SFZ、P2Z です。



■ 複数工数選択

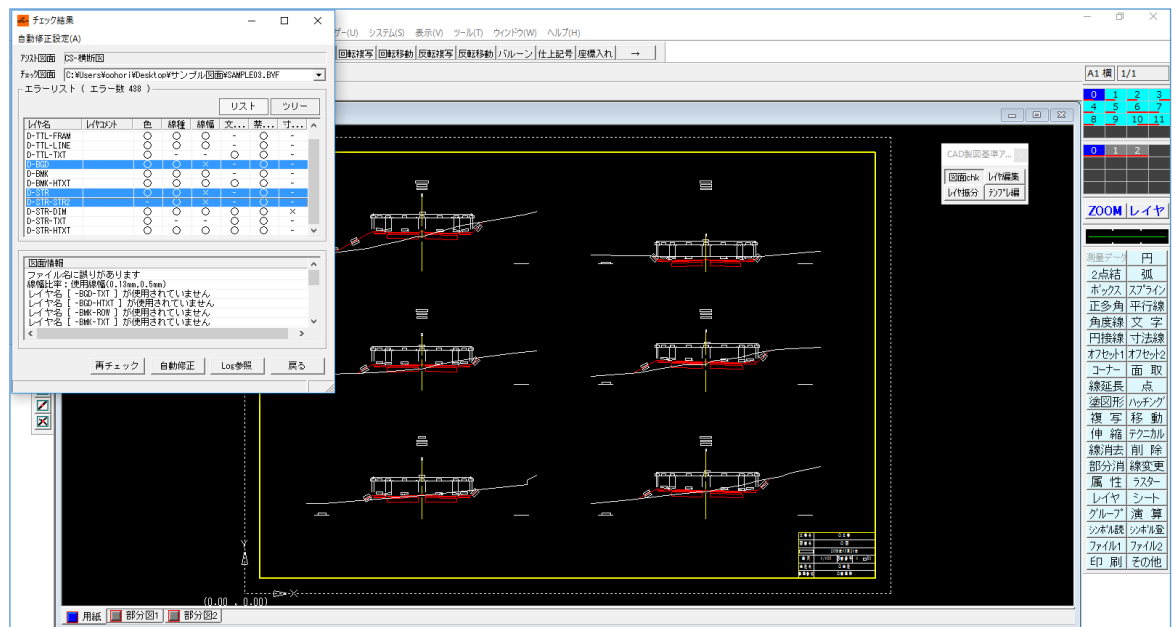
アシスト図面上でマウスの右ボタンをクリックしポップアップメニューから[複数工数選択]をクリックすると、「アシスト図面選択」が表示されます。いずれかのアシスト図面を選択し[OK]をクリックすると、|を境界線に選択したアシスト図面が表示されます。



- ・ BV Finder でファイルを選択し[開く]をクリックした場合、ファイル名に使用できない記号など(基準に使用できない文字)が使用されている場合、エラーメッセージが表示され、ファイルを選択することができません。
- ・ 各レイヤ名、線色、線種については[図面選択]で読み込んだ図面とユーザーファンクション定義ファイルからチェックします。「禁則文字のチェックをする」がオンになっている場合には、使用禁止文字が使われていないかチェックします。文字コードチェックがオンになっている場合には使用禁止文字が使われていないかチェックします。それ以外は後述の「チェック項目の内容」のとおりチェックをします。
- ・ ユーザーファンクションの定義ファイル内のレイヤは番号で指定してありますが、その図面のレイヤ番号からレイヤ名を参照するようにします。そのため BVF 以外の図面でもチェック可能です。
- ・ 選択できるアシスト図面は最大3ファイルまでです。

4 チェックを行う

[図面チェック]をクリックすると図面チェックが実行され、「チェック結果」ダイアログボックスが表示されます。



「アシスト図面」には選択したアシスト図面名が表示されます。

「チェック図面」には選択可能なチェック図面が表示されます。複数図面がある場合は、ドロップダウンリストより選択することができます。



■エラーの表示方法

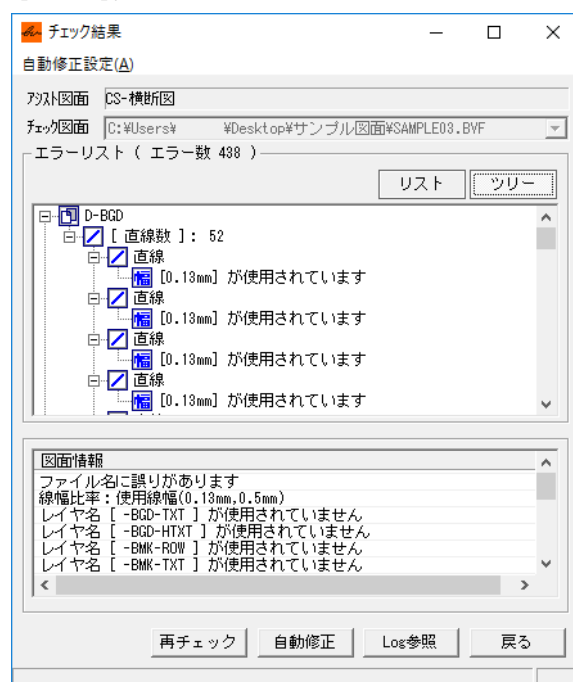
チェック結果を一覧表形式で表示します。

[ツリー]をクリックすると、一覧表示内で反転表示しているレイヤのエラー内容をツリー表示します。

▼[リスト]表示



▼[ツリー]表示



＜以下、リスト表示、ツリー表示の各操作について説明します。＞

5 リスト表示

1 要素ごとのエラーではなく、レイヤごとにどのチェック項目でエラーが発生しているかを○×で表示します。

レイヤ順はチェック図面のレイヤ順で表示します。

行：レイヤ

列：チェック項目（色、線種、線幅：チェックオンのときのみ）

「図面情報」の一覧には、現在反転表示しているレイヤのエラー内容を表示します。

レイヤごとに1要素ずつエラー内容を表示します。

■ ポップアップメニュー

エラーリスト内で右ボタンをクリックすると、自動修正処理のポップアップメニューが表示されます。

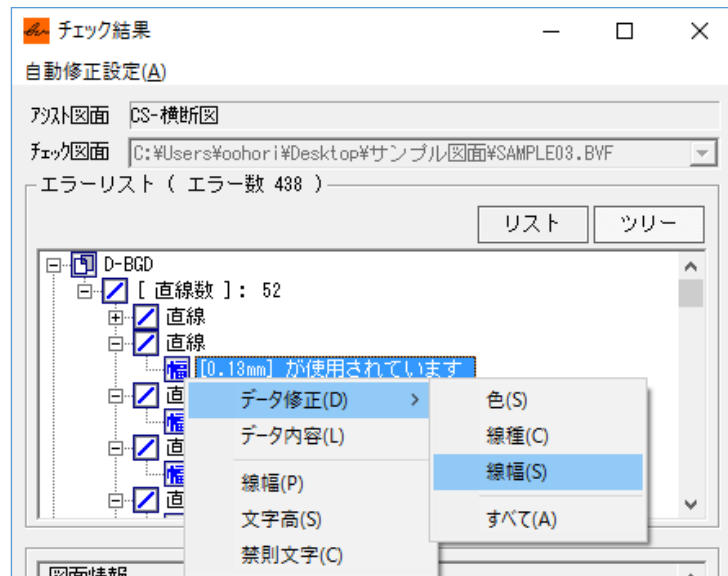
自動修正の範囲は、選択レイヤ、カレント図面、全図面のいずれかを選択します。

線幅、文字高、禁則文字の各種設定については、「解説：自動修正設定について」で説明しています。



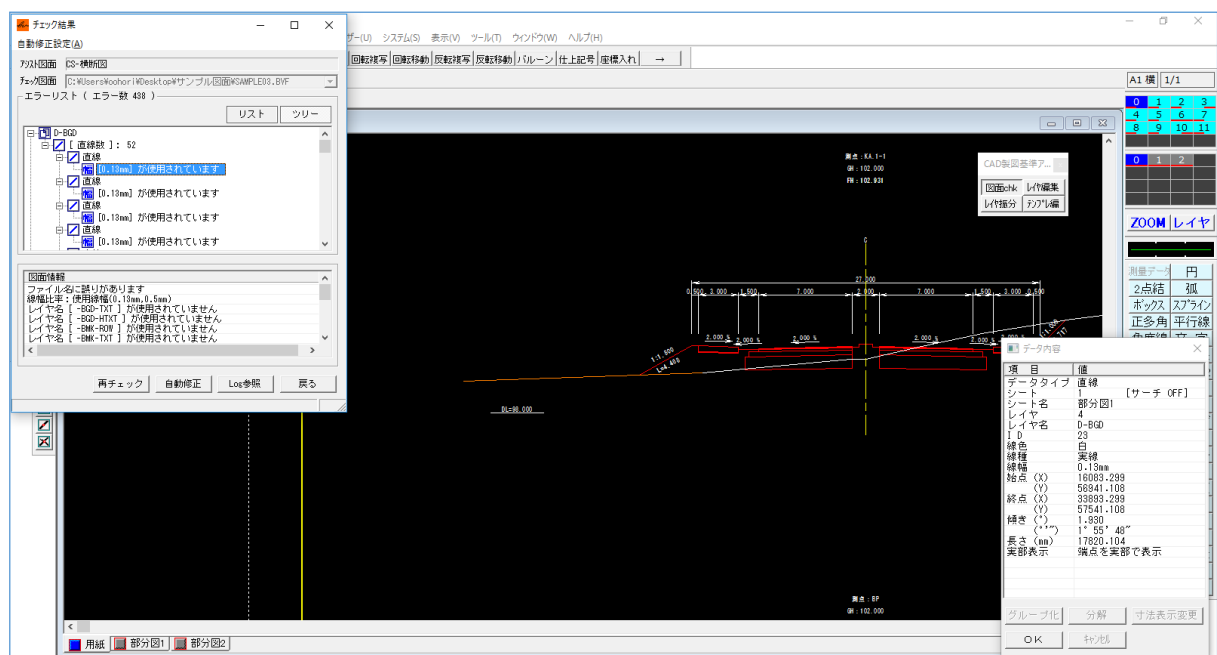
6 ツリー表示

⊞ をクリックすると、□ に変わり、その下の階層に説明が表示されます。
1 行を選択して右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。



データ修正 : 色、線種、線幅のいずれかを選択します。それぞれ、該当する要素のペンコントロールパネルが表示されます。

データ内容 : 「データ内容」ダイアログボックス内で各種の編集を行うことができます。



線幅、文字高、禁則文字 : それぞれ各要素の「自動修正設定」ダイアログボックスが表示されます。詳しい操作については、「解説：自動修正設定について」で説明しています。

7 [Log 参照] をクリックするとこのチェック結果 Log をエディタ(「メモ帳」)で開きます。



エディタの画面で終了をクリックすると、「チェック結果」ダイアログボックスに戻ります。

- ・ 不適合数と不適合内容の合計は必ずしも一致しません。

8 全ての編集が終了したら、「チェック結果」ダイアログボックスで[再チェック] をクリックし、この図面 1 枚だけを再度チェックして、チェック結果の表示を更新します。

[戻る] をクリックし、CAD 上にこの図面があるときには上書き保存して図面を閉じてから「CAD 製図基準アシスト T2 チェッカー」ダイアログボックスに戻ります。

[自動修正] をクリックすると、「自動修正設定」ダイアログボックスが表示されます。操作の詳しい内容は、「解説：自動修正設定について」にて説明しています。

解 説：自動修正設定について

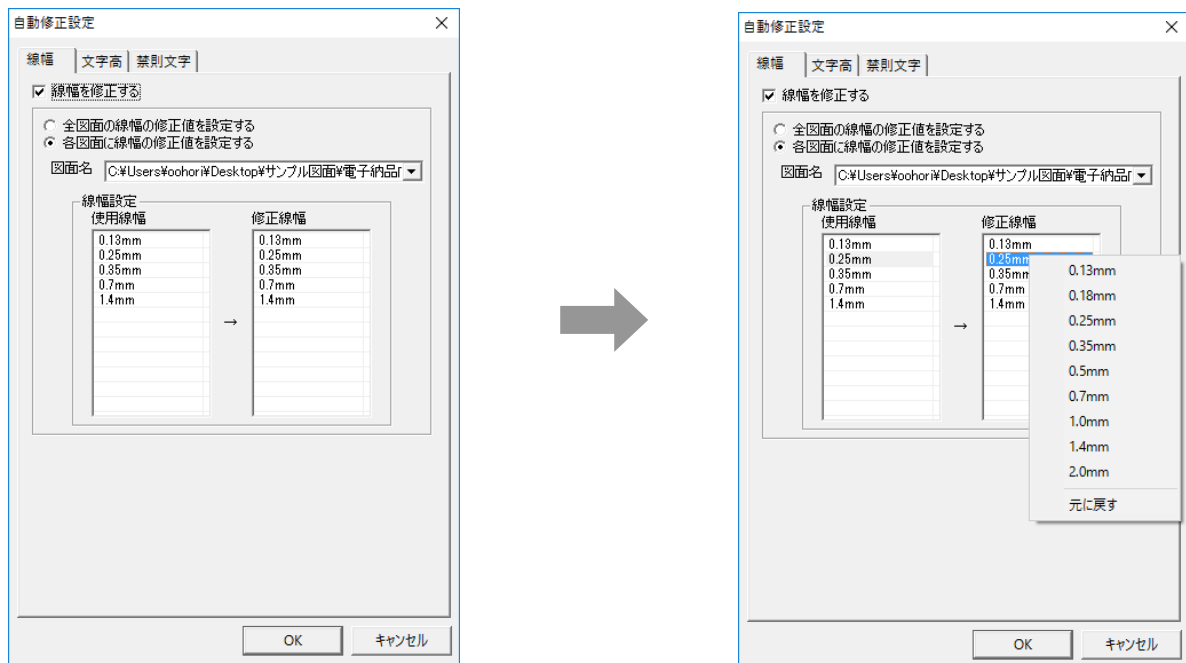
■ 線幅

「自動修正設定」ダイアログボックスで「線幅」タブをクリックします。または、「チェック結果」ダイアログボックスのプルダウンメニュー[自動修正設定]－[線幅]、エラーリスト内右クリックで表示されるポップアップメニューから[線幅]を選択します。「自動修正設定(線幅)」ダイアログボックスが表示されます。

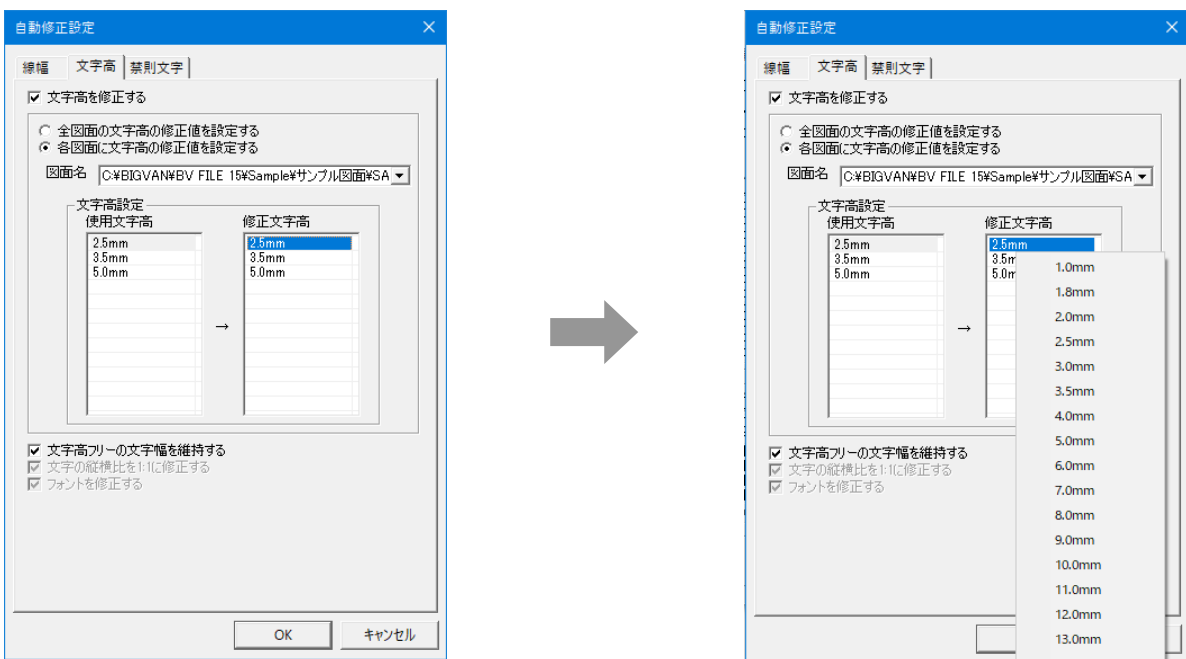
「全図面の線幅の修正値を設定する」または「各図面に線幅の修正値を設定する」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。図面名は、ドロップダウンリスト内からいずれかをクリックして選択します。

「線種設定」では、使用されている線幅が全て表示されます。「修正線種」内のいずれかの線幅にカーソルを移動し、右ボタンをクリックすると各種線幅が表示されますので、いずれかをクリックして選択します。

＜チェック設定の「標準文字高さでチェック」がオンの場合＞



＜チェック設定の「標準文字高さでチェック」がオンの場合＞



- ・ [チェック設定]－[ペン]－[線幅]のアシスト図面への指定線幅のチェックがオンの場合はグレー表示となり、設定できません。アシスト図面に設定された線幅で修正されます。

■ 文字高さ

「自動修正設定」ダイアログボックスで「文字高」タブをクリックします。または、「自動修正設定」ダイアログボックスで「文字高」タブをクリックします。または、「チェック結果」ダイアログボックスのプルダウンメニュー[自動修正設定]－[文字高]、エラーリスト内右クリックで表示されるポップアップメニューから[文字高]を選択します。「自動修正設定(文字高)」ダイアログボックスが表示されます。「全図面の文字高の修正値を設定する」または「各図面に文字高の修正値を設定する」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

図面名はドロップダウンリスト内からいずれかをクリックして選択します。

「文字高設定」では、使用されている文字高が全て表示されます。「修正文字高」内のいずれかの文字高にカーソルを移動し、右ボタンをクリックすると各種文字高が表示されますので、いずれかをクリックして選択します。



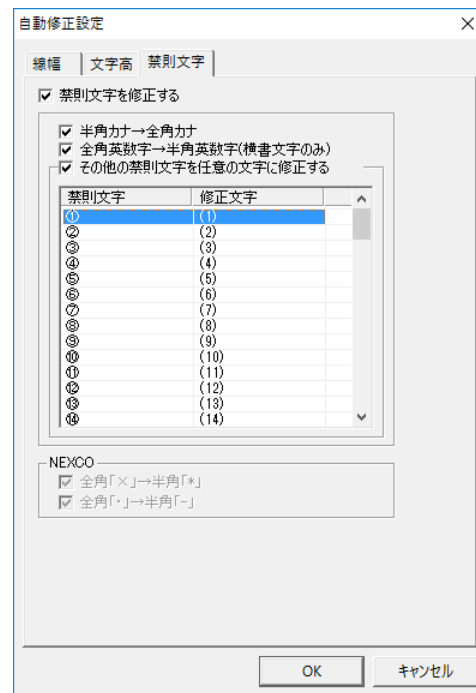
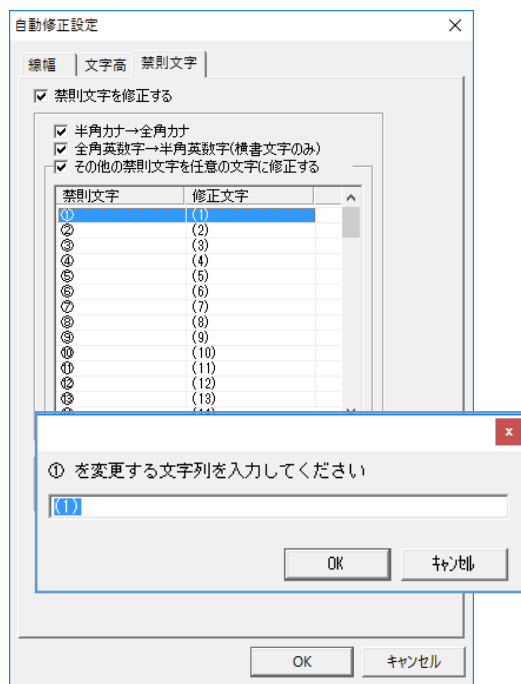
「文字高フリーの文字幅を維持する」チェックマークをオンにすると、フリーの文字幅は設定された幅が維持されます。

■ 禁則文字

「自動修正設定」ダイアログボックスで「禁則文字」タブをクリックします。または、「チェック結果」ダイアログボックスのプルダウンメニュー[自動修正設定]－[禁則文字]、エラーリスト内右クリックで表示されるポップアップメニューから[禁則文字]を選択します。「自動修正設定(禁則文字)」ダイアログボックスが表示されます。

半角カナ→全角カナ、全角英数字→半角英数字(縦書文字のみ)、その他の禁則文字を任意の文字に修正する、はそれぞれチェックマークをオンにすると自動修正が有効となります。

「その他の禁則文字を任意の文字に修正する」は、どの禁則文字をどの禁則文字に自動修正するかを設定することができます。一覧内の禁則文字にカーソルを移動し、ダブルクリックすると文字列入力欄が表示されますので、文字を入力して[OK]をクリックします。



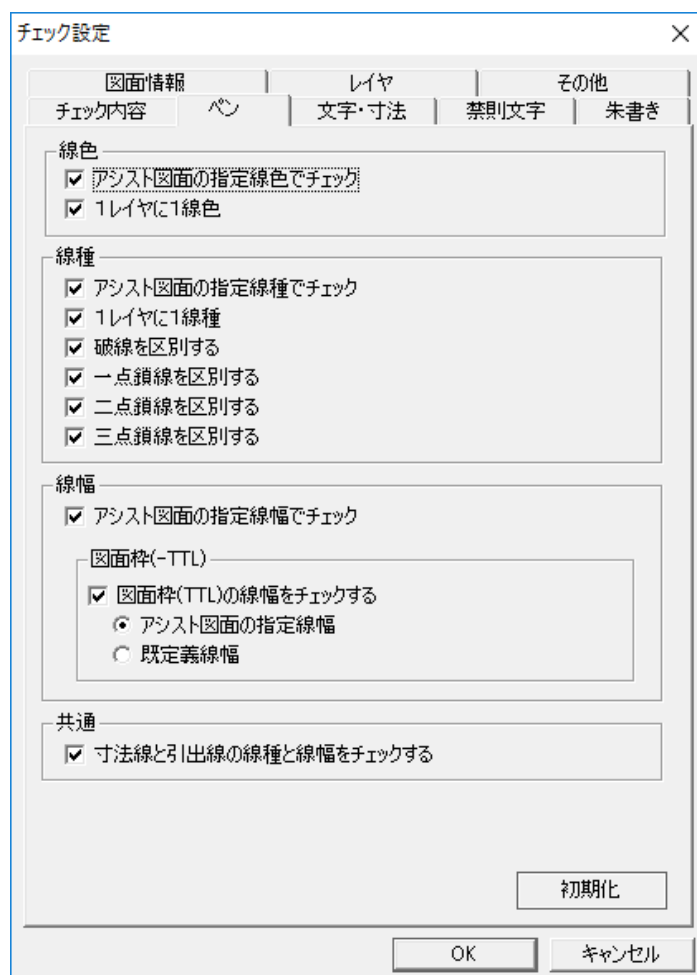
2.1.2. チェック項目の内容

● ペン

[チェック設定]－[ペン]を選択すると、「チェック設定(ペン)」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークをオンまたはオフにして処理を選択します。

[初期化]をクリックすると、設定値を初期状態に戻します。



■線色

線色のチェック方法を設定します。

アシスト図面の指定線色でチェック

〈チェック オン〉アシスト図面で指定されている線色でチェックします。

アシスト指定色がユーザー定義の場合は、RGB 値でチェックを行います。

〈チェック オフ〉RGB 値でチェックします。

※RGB 値が 128 の場合は 127、192 の場合は 191 も許可します。

1レイヤに1線色

〈チェック オン〉アシストで指定されている線色でチェックします。(拡張ペンなし)

〈チェック オフ〉拡張ペンの線色を全て有効にしてチェックします。

※アシスト図面の指定線色でチェックがオフの場合は、拡張ペンの線色も RGB 値でチェックします。

■線種

線種のチェック方法を設定します。

アシスト図面の指定線種でチェック

〈チェック オン〉アシストで指定されている線種でチェックします。

アシスト指定線種がユーザー定義線種の場合は、セグメントとピッチが完全一致の比較を行います。

〈チェック オフ〉全ての線種をセグメント数でチェックします。

セグメント数でチェックします。

『一点鎖線を区別する』オンにしている、アシストで定義してあるレイヤの線種が一点鎖線の場合、一点短鎖線・一点長鎖線はセグメント数が同じため、エラーにはなりません。

1レイヤに1線種のみ

〈チェック オン〉アシストで指定されている線種でチェックします。(拡張ペンなし)

〈チェック オフ〉拡張ペンの線種を全て有効にしてチェックをする。

※アシスト図面の指定線種でチェックがオフの場合は、拡張ペンの線種をセグメント数でチェックする。

※線種ピッチの比較では、ピッチ誤差を 0.01mm として比較する。

破線を区別する

アシストの指定線種が破線の場合に設定します。

〈チェック オン〉チェック図面に破線以外はエラーとします。

〈チェック オフ〉セグメント数 = 2 の時はエラーとしません。

アシスト指定線種がユーザー定義線種でセグメント数が2の場合も同様です。

セグメント数でチェックします。

『一点鎖線を区別する』オンにしている、アシストで定義してあるレイヤの線種が一点鎖線の場合、一点短鎖線・一点長鎖線はセグメント数が同じため、エラーにはなりません。

一点鎖線を区別する

アシストの指定線種が一点鎖線の場合に設定します。

〈チェック オン〉一点短鎖線・一点長鎖線はエラーとします。

〈チェック オフ〉一点短鎖線・一点長鎖線を一点鎖線と同線種としエラーとしない。

※対象要素の線種がユーザー定義線種の場合、下記の判断で一点鎖線とします。

|----- L1 -----| L2 + L3 + L4 |

条件) セグメント数=4、かつ L2=L4、かつ L1≠L3 の場合。

セグメント数でチェックします。

『一点鎖線を区別する』オンにしている、アシストで定義してあるレイヤの線種が一点鎖線の場合、一点短鎖線・一点長鎖線はセグメント数が同じため、エラーにはなりません。

二点鎖線を区別する

アシストの指定線種が二点鎖線の場合の設定

〈チェック オン〉二点短鎖線・二点長鎖線はエラーとする。

〈チェック オフ〉二点短鎖線・二点長鎖線を二点鎖線と同線種としエラーとしない。

※対象要素の線種がユーザー定義線種の場合、下記の判断で二点鎖線とする。

|----- L1 -----| L2 + L3 + L4 + L5 + L6 |

条件) セグメント数=6、かつ L2 = L4 = L6、かつ L1, L3, L5 のうち2つが同じ長さ。

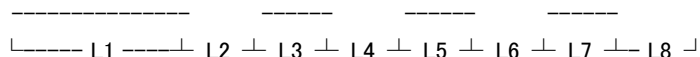
セグメント数でチェックします。

『一点鎖線を区別する』オンにしている、アシストで定義してあるレイヤの線種が一点鎖線の場合、一点短鎖線・一点長鎖線はセグメント数が同じため、エラーにはなりません。

三点鎖線を区別する

〈チェック オン〉三点短鎖線・三点長鎖線はエラーとします。

〈チェック オフ〉三点短鎖線・三点長鎖線を三点鎖線と同線種としエラーとしません。



条件1) セグメント数=8

条件2) L2 = L4 = L6 = L8、かつ L1、L3、L5、L7 のうち1つが同じ長さ。

※補足：1レイヤに2つ以上の線種は拡張線種が別ものです。

1. 受発注者間で1レイヤに使用できる線種を一点鎖線と破線とする場合には拡張線種を使用します。
2. 一点鎖線とは一点鎖線・一点短鎖線・一点長鎖線、同じセグメント数のユーザー定義線種を同線種として扱う、の2ケースがありますので注意願います。

セグメント数でチェックします。

『一点鎖線を区別する』オンにしている、アシストで定義してあるレイヤの線種が一点鎖線の場合、一点短鎖線・一点長鎖線はセグメント数が同じため、エラーにはなりません。

■線幅

線幅のチェック方法を設定します。

アシスト図面の指定線幅でチェック

〈チェック オン〉アシストで指定されている線幅でチェックします。

〈チェック オフ〉線幅を既定義線幅でチェックします。

※既定義線幅…0.13、0.18、0.25、0.35、0.5、0.7、1.0、1.4、2.0mm

図面枠(TTLのレイヤ)の線幅をチェックする

〈チェック オン〉使用されている全ての線幅をチェックする。

〈チェック オフ〉図面枠(TTLのレイヤ)の線幅はチェック対象外とする。

※図面枠レイヤの判断は“-TTL”レイヤのみで、“-TTL-FRAM”、“-TTL-LINE”、“-TTL-BAND”等は図面枠レイヤとして扱わない。

アシスト図面に設定された線幅でチェックするか(「アシスト図面の指定線幅」、上記の既定義線幅でチェックするか(「既定義線幅」)ラジオボタンの切替を行います(初期値は「アシスト図面の指定線幅」)。

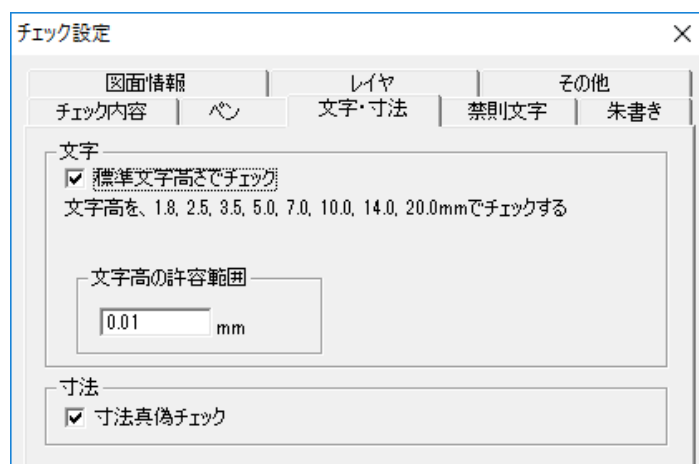
いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

● 文字・寸法

[チェック設定]ー[文字・寸法]を選択すると、「チェック設定(文字・寸法)」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークをオンまたはオフにして処理を選択します。

[初期化]をクリックすると、設定値を初期状態に戻します。



■文字

標準文字高さでチェック

〈チェック オン〉文字高さを 1.80、2.50、3.50、5.00、7.00、10.00、14.00、20.00mm でチェックします。

〈チェック オフ〉文字高が整数値であれば、エラーとしません。(1.80、2.50、3.50mm を除く)

文字高の許容範囲

数値入力欄に許容範囲を入力します。

許容範囲の初期値＝0.01mm

デフォルトは 0.01mm で、文字高さの許容範囲は 0.0mm 以上 1.0mm 未満です。

■寸法

寸法真偽チェック

〈チェック オン〉直線寸法の真偽チェックを行います。

〈チェック オフ〉真偽チェックを行いません。

※エラー数にはカウントしません。

※下記のパターンで真偽エラーとします。

- ・真偽フラグ＝真で、値が偽の場合。
 - ・真偽フラグ＝偽で、値が偽の場合。
 - ・文字列がない、若しくは真値計測不能の場合。
- の3つの条件の場合にエラー結果に×を表示します。

● 禁則文字

[チェック設定]－[禁則文字]を選択すると、「チェック設定(禁則文字)」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークをオンまたはオフにして処理を選択します。

[横書きすべてON]、[縦書きすべてON]をクリックすると、それぞれチェックマークがすべてオンになります。

[初期化]をクリックすると、設定値を初期状態に戻します。

チェック設定

図面情報 | レイヤ | その他

チェック内容 | ペン | 文字・寸法 | 禁則文字 | 朱書き

☒ 禁則文字のチェックをする

横／縦書き文字

☐ 半角ローマ字

☐ 半角数字

☐ 半角記号

☒ 半角カナ

☐ 全角罫線

☐ 全角ロシア

☐ 全角ギリシャ

☒ 全角数字

☒ 全角ローマ字

☐ 全角ひらがな

☐ 全角カタカナ

☐ 全角漢字

☐ 全角記述記号

☐ 全角学術記号

☐ 全角単位記号

☐ 全角一般記号

☒ 全角その他

横書きすべてON 縦書きすべてON 初期化

OK キャンセル

■禁則文字のチェックをする

禁則文字のチェックを行うかの設定を設けます。

＜チェック オン＞禁則文字のチェックを行います。

〈チェック オフ〉禁則文字に関してチェックしません。

■横／縦書き文字

禁則文字の設定内容を指定します。

半角記号等、削除はできますが追加はできません。

＜＜禁止文字のデフォルトと補足説明＞＞

各文字種別の文字列と使用禁止文字種のデフォルトは次のとおりです。

- ・使用可能文字種

半角記号 : ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < > ? @ [\] ^ _ { | } ~

半角ローマ字 : ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz

半角数字 : 0123456789

全角数字 : 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

全角ローマ字 : A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t
u v w x y z

※全角数字、全角ローマ字の縦書き文字は不可です。

全角記述記号 :、。、，．・：；?!“”°‘’^_‐\ゝゞヾ〃全々×○——-／＼～∥|…… ”（）□[]{}◇
《》「」『』【】“”

全角学術記号 : +-±×÷=≠<>≤≥∞ ∴ ♂ ♀ ∠ ⊥ ^ ∂ ∇ ≡ ÷ « » √ ∞ ∞ ∴ ∫ ∬ ∈ ∃ ⊆ ⊇ ⊂ ⊃ ∪ ∩ ∧ ∨ ¬ ⇒ ∀ ⇔ ∃

全角単位記号 : ° ' " °C ¥ \$ ¢ £ % Å ‰

全角一般記号 : # & * @ § ☆ ★ ○ ● ◎ ◇ ◆ □ ■ △ ▲ ▽ ▼ ※ 〒 → ← ↑ ↓ = # ♭ ♪ † ‡ ¶ ○

全角ロシア : АБГДЕЁЖЗИЙКЛМНОПРСТУФХЦЧШЩЪЫЬЭЮЯ а б в г д е ё ж з и й к л м
н о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы ь э ю я

全角ギリシャ：ΑΒΓΔΕΖΗΘΙ ΚΛΜΝΞΟΡΣΤΥΦΧΨΩ αβγδεζηθικλμνξοπρστυφχψω

全角罨線 : — | □ ▽ ◀ ▶ | — | □ ▽ ◀ ▶ | — | — | — | — | — | —

全角ひらがな : JIS X0208 の全てのひらがな

全角カタカナ：JIS X0208 の全てのカタカナ

全角漢字 : 全ての漢字

- ・使用禁止文字種

全角その他 : ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩミリキロセンチメートルトンパーセントリットルワットロッドゼットヘルツmm
cmkmmgkgccm平成 〃 No.KKTEL(中)(下)(左)(右)(株)(有)(代)明治大正昭和

縦書の全角数字／全角ローマ字　：全て

半角カナ : 全て

● 朱書き

図面チェック後にエラー分類を表示するための朱書きの設定を行います。

[チェック設定]－[朱書き]を選択すると、「チェック設定(朱書き)」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークをオンまたはオフ、またはドロップダウンリストより選択します。

[初期化]をクリックすると、設定値を初期状態に戻します。

チェック設定

図面情報 | レイヤ | その他

チェック内容 | ペン | 文字・寸法 | 禁則文字 | 朱書き

☒ 朱書き図面を作成する

文字スタイル: フリー

フォント: MS ゴシック

文字高: 3.5 mm

バルーン間隔: 0.0 mm

朱書き色: 赤

線幅: 0.13mm

直径: 3.5 mm

☐ レイヤグレー表示

保存形式

☐ SFC ☐ OCF仕様朱書き

☐ P21

☐ SFZ (SFC圧縮形式)

☐ P2Z (P21圧縮形式)

☒ BVR

初期化

OK キャンセル

■朱書き図面を作成する

朱書き図面を作成するかの設定を行います。

〈チェック オン〉朱書き設定を作成します。

- | | |
|-------|------------------------------------|
| ①色 | 直線や文字、寸法線の色がエラーの場合。 |
| ②線種 | 直線や寸法線の線種がエラーの場合。 |
| ③線幅 | 直線や寸法線の線幅がエラーの場合。 |
| ④禁則文字 | 文字に設定された禁則文字が含まれる場合(「禁則文字」の設定による)。 |
| ⑤文字高 | 文字高が既定義文字高でない場合(「文字・寸法」の設定による)。 |
| ⑥寸法偽値 | 寸法値が偽値の場合。 |

〈チェック オフ〉朱書き設定の全コントロールをグレー表示にします。

■設定項目

• 文字スタイル・フォント

ドロップダウンリストからいずれかの文字スタイル・フォントを選択します。

文字スタイルのA～Lは、CADシステムの文字高さ設定にて設定された高さが表示されます。

フリーを選択した場合は、「文字高」の入力欄に原寸mm単位で数値を入力します。

• バルーン間隔

※バルーンの間隔を原寸のmm単位で入力します。

• 朱書き色・線幅

ドロップダウンリストからいずれかの色を選択します。

• 直径

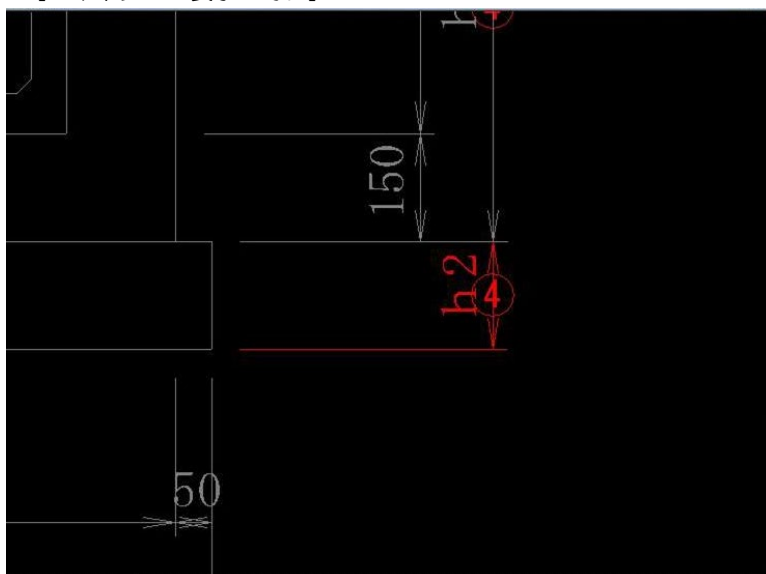
エラー分類番号の円の直径を原寸の mm 単位で入力します。

• レイヤグレー表示のオン/オフ

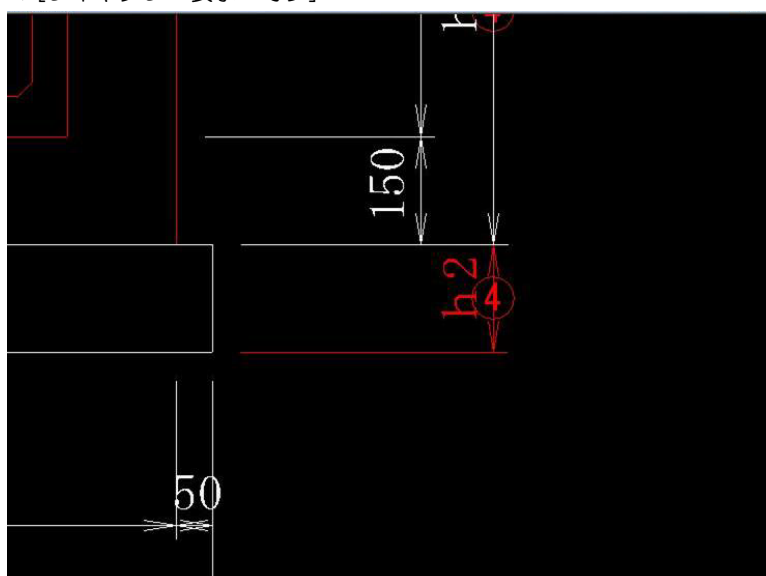
〈チェック オン〉 朱書きデータ以外をグレー表示します。

〈チェック オフ〉 朱書きデータ以外をグレー表示しません。

▼[レイヤグレー表示 オン]



▼[レイヤグレー表示 オフ]



■保存形式

自動朱書き図面のファイル保存形式を選択することができます。

いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

☐ SFC

☐ P21

☐ SFZ (SFC 圧縮形式)

☐ P2Z (P21 圧縮形式)

☒ BVR ※ BVR は保存形式を、BV-E 以降から選択可能にします。

デフォルトの BVR のバージョンはご利用のバージョンとなります。

SXF 出力は、朱書きレイヤを追加して朱書きハルーンを配置し図面を保存します。

ファイル名は、“既存ファイル名” + (朱書き)

保存パスに同名のファイルがあった場合は上書き保存します。

「OCF 仕様朱書き」チェックマークをオン・オフのすることにより、設定を行います。

オン …… 別ファイルにて保存します。

保存朱書きファイル名：“ファイル名” + “(red)” + “作成年月日” + “. 拡張子”

オフ …… 朱書きレイヤを追加して朱書きハルーンを配置し図面を保存します。

保存朱書きファイル名：“ファイル名” + “(朱書き)” + “作成年月日” + “. 拡張子”

なお、保存パスに同名のファイルがあった場合は自動的に上書き保存します。

● 図面情報

[チェック設定]－[図面情報]を選択すると、「チェック設定(図面情報)」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークをオンまたはオフにして選択します。[初期化]をクリックすると、設定値を初期状態に戻します。

チェック設定

チェック内容 | ペン | 文字・寸法 | 禁則文字 | 朱書き

図面情報 | レイヤ | その他

図面情報出力設定

☒ 不適合内容のみ出力

☒ 図面情報を出力

図面情報出力項目

☒ ファイル名

☒ 図面枠関連

☒ 縮尺

☒ 用紙サイズ

☒ SXF要素

☒ 線幅

☒ 発注者レイヤ(ORD)

☒ チェック設定項目出力

チェック制限

☐ 制限あり 1000 件

☒ 制限なし

初期化

OK キャンセル

■不適合内容のみ出力

Log 参照に不適合な項目のみを出力し、適合項目は出力しません。

■図面情報出力項目

各チェックボックスをオンにすると、下記の（関連）の内容が図面情報として出力されます。

• ファイル名

（関連） • ファイル名に誤りがあります。

• 図面枠関連

（関連） • 外枠のレイヤ (TTL) がありません。
• 図面枠に縮尺 1 / 1 以外が使用されています。
• 輪郭線が規定より外側に出ています。

• 縮尺

（関連） • 全ての部分図 (シート) の縮尺が 1 / 1 に設定されています。
• 部分図 (シート) に縦横異縮尺が使用されています。
• 1 / 1 よりも大きい縮尺が使用されています。
• この平面図の部分図には座標設定されていません。

• 用紙サイズ

（関連） • 用紙サイズに A0 縦が使用されています。
※ A1 以外が使用されている場合にのみ出力されます。

• SXF 要素

（関連） • 寸法線関連の要素があります。
• ラスターが複数使用されています。

• 線幅

（関連） • 4 種類以上の線幅が使用されています。
• 線の太さが 1 : 2 : 4 の比率になっていません。

• 発注者レイヤ (ORD)

（関連） • 「発注者レイヤ [x-ORDxxx] が使用されています。

■チェック設定項目出力

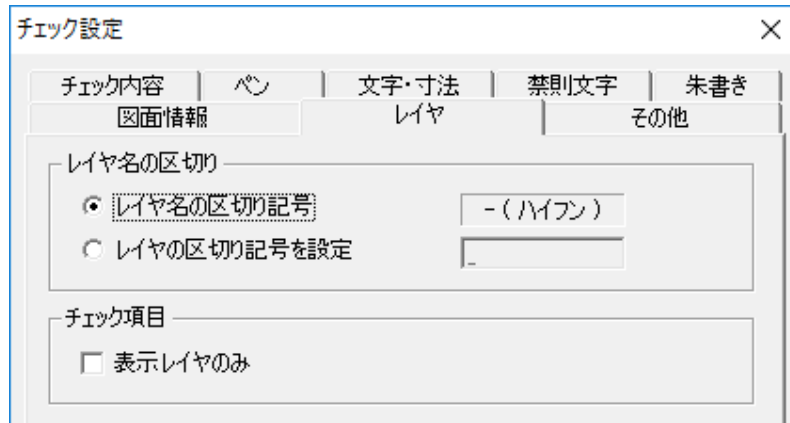
チェックボックスをオンにすると、チェック設定の設定内容を出力します。
オフでは出力しません。

■チェック時のエラー数制限の設定

「制限あり」、または「制限なし」のいずれかをラジオボタンをクリックして選択します。
「制限あり」を選択した場合は、入力欄内に件数を入力します。

● レイヤ

[チェック設定]－[レイヤ]を選択すると、「チェック設定(レイヤ)」ダイアログボックスが表示されます。
いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
[初期化]をクリックすると、設定値を初期状態に戻します。



レイヤ名の区切り

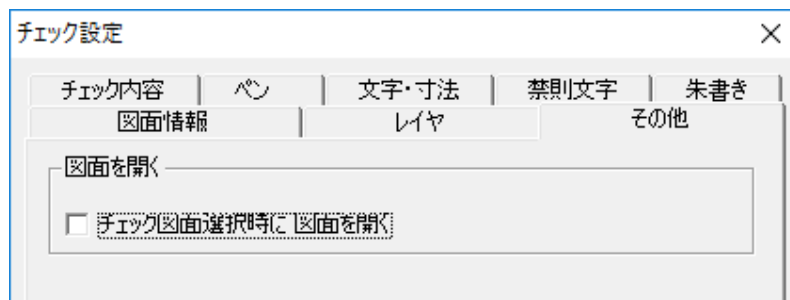
「レイヤ名の区切り記号」または「レイヤの区切り記号を設定」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「レイヤの区切り記号を設定」を選択した場合は、入力欄内に区切り記号を入力します。

チェック項目

「表示レイヤのみ」チェックマークをオンにすると、表示レイヤのみをチェックします。
チェックマークがオフの場合は、全レイヤをチェックします。

● その他

[チェック設定]－[その他]を選択すると、「チェック設定(その他)」ダイアログボックスが表示されます。

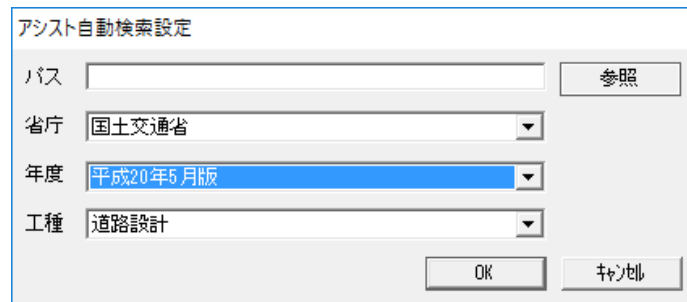


チェック図面選択時に図面を開く

チェックマークをオンにすると、チェック対象となる図面が開きます。

● アシスト自動検索設定

[チェック設定]－[アシスト自動検索設定]を選択すると、「アシスト自動検索設定」ダイアログボックスが表示されます。



アシスト自動検索設定

パス 参照

省庁 国土交通省

年度 平成20年5月版

工種 道路設計

OK キャンセル

パスの選択

[パス]欄内にはアシスト図面が格納されているパスを選択します。[参照]をクリックすると、「フォルダーの参照」ダイアログボックスが表示されますのでいずれかのフォルダを選択し、[OK]をクリックします。

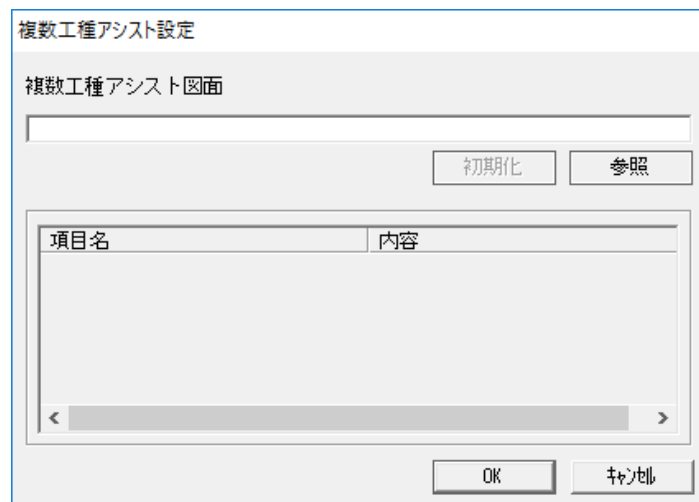
省庁・年度・工種の選択

それぞれ、ドロップダウンリストよりクリックして選択します。

「アシスト自動検索設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、アシスト自動検索の設定が行われます。

● 複数工種アシスト設定

[チェック設定]－[複数工種アシスト設定]を選択すると、「複数工種アシスト設定」ダイアログボックスが表示されます。



複数工種アシスト設定

複数工種アシスト図面

初期化 参照

項目名	内容

OK キャンセル

特定の省庁のテンプレートに限り選択が可能です。（発注者専用テンプレートのみ）

2.2. レイヤ名編集

2.2.1. 「レイヤ名編集」ダイアログボックスの基本操作

● 解説

「レイヤ名編集」ダイアログボックスで、各種のレイヤ名編集処理を行います。

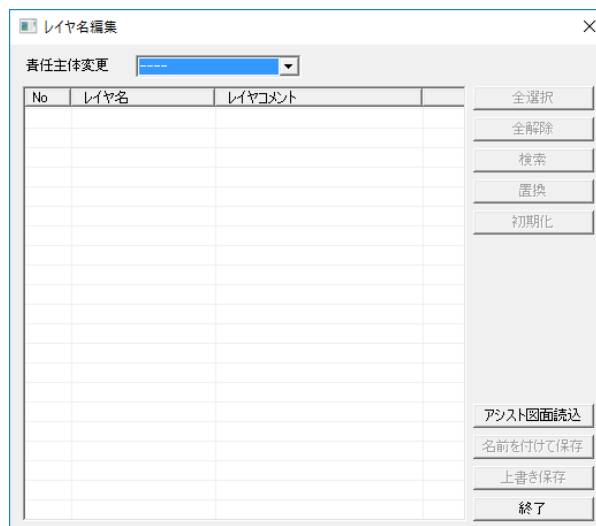
レイヤ名について

CAD製図基準アシストで作成された図面のレイヤ名は、CAD製図基準のレイヤ名とレイヤコメント（日本語名）で構成されています。

● 操作方法

1 図面ファイルの選択

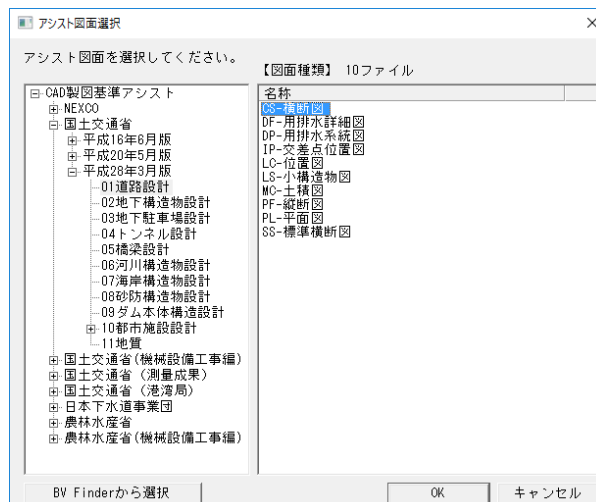
何も図面ファイルが選択されていない状態で [システム]-[オプション]-[CAD 製図基準アシスト T2]- [レイヤ名編集] を選択すると、「レイヤ名編集ダイアログボックス」が表示されます。



2 機能の選択

[アシスト図面読込] から「アシスト図面選択」ダイアログボックスが表示されますので、レイヤ名編集対象のアシスト図面ファイルを選択し、[OK] をクリックすると「レイヤ名編集」ダイアログボックスが表示されます。

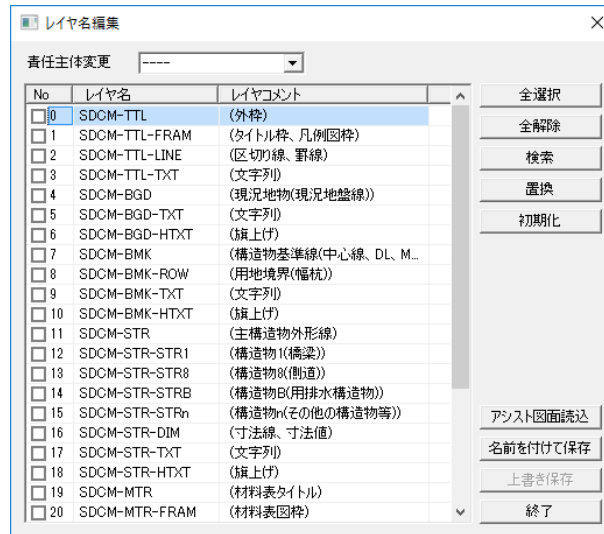
（アシスト図面ファイル以外の図面ファイルは「BV Finder から選択」から選択することができます。）



3 機能の選択

「レイヤ名編集」ダイアログボックスでいずれかの機能を選択します。

機能を選択すると、ダイアログボックスが表示されますので、各処理を行い設定を実行すると本ダイアログボックスに戻ります。



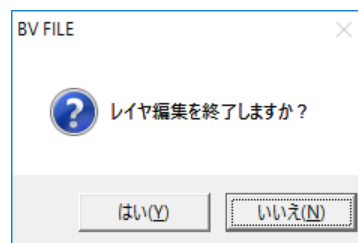
4 レイヤ名・レイヤコメントの編集

「レイヤ名編集」ダイアログボックス内のレイヤ名またはレイヤコメント一覧の各項目内でマウスの左ボタンをダブルクリックすると、文字列の編集モードとなりますので、キーボードより文字列を入力して編集します。

5 図面ファイルの保存

[名前を付けて保存]または[上書き保存]をクリックすると、図面ファイルを保存できます。

6 [終了]をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、現在開いている図面のレイヤ名変更が実行されず、CADシステムの作業モードに戻ります。
[いいえ]をクリックすると、レイヤ名編集に戻ります。

以下、各編集機能について説明します。

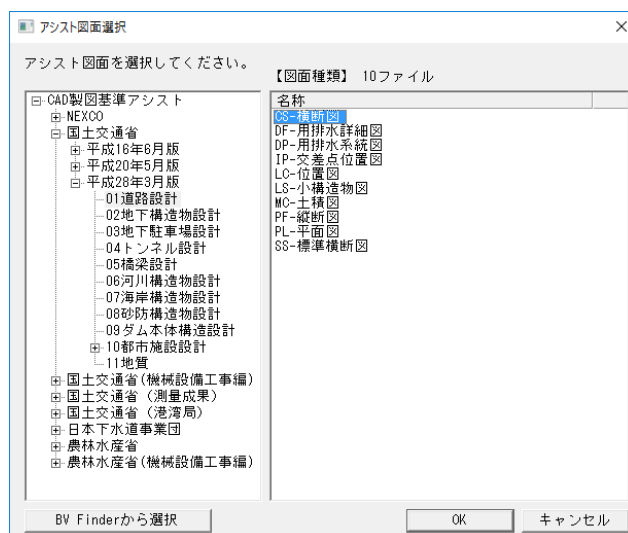
2.2.2. 図面ファイルを開く

● 解説

レイヤ名編集処理を行う図面ファイルを選択します。

● 操作方法

- 1 [アシスト図面読込]を選択すると、「アシスト図面選択」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 レイヤ名編集対象の図面ファイルを選択し[OK]をクリックすると、「レイヤ名編集」ダイアログボックスに戻ります。

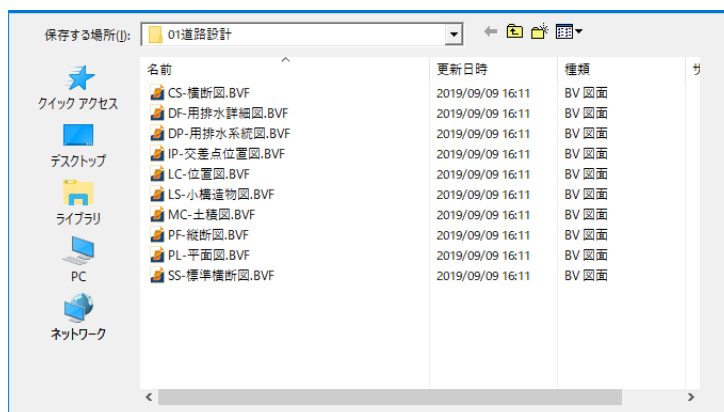
2.2.3. 名前を付けて図面を保存する

● 解説

レイヤ名編集処理を行った図面ファイルを他の名前を付けて保存します。

● 操作方法

- 1 [名前を付けて保存]を選択すると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 図面ファイル名を入力し[保存]をクリックすると、「レイヤ名編集」ダイアログボックスに戻ります。

2.2.4. 上書き保存する

● 解説

レイヤ名編集処理を行った図面ファイルを上書き保存します。
オリジナルのアシスト図面の場合は上書き保存できません。

● 操作方法

1 [上書き保存]をクリックすると、レイヤ名編集処理を行った図面ファイルを上書き保存します。

2.2.5. レイヤ名の編集を行う

● 解説

「レイヤ名編集」ダイアログボックス内の各種機能を実行して、レイヤ名の各種編集を行います。
編集処理には以下の種類があります。

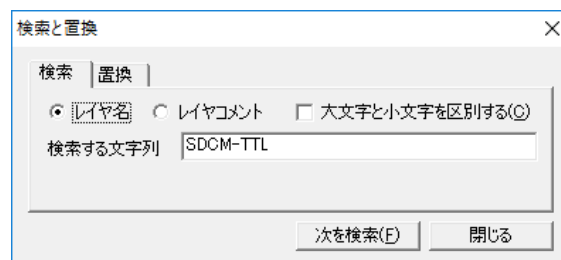
- ・文字列を検索する
- ・文字列を置換する
- ・初期化する
- ・レイヤコメントを付加する
- ・文字列を削除する

以下、それぞれについて説明します。

- ・ 図面内に同じレイヤ名があった場合処理を中断し、処理を行う前に戻ります。
- ・ レイヤ名、レイヤコメントに半角カンマがある場合、処理を中断します。

● 文字列を検索する

1 [検索]を選択すると、「検索と置換」ダイアログボックスが表示されます。
「レイヤ名」、「レイヤコメント」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「大文字と小文字を区別する」チェックボックスをオンにした場合、大文字と小文字を区別して検索します。
「検索する文字列」には、文字列をキーボードから入力します。



2 [次を検索]をクリックすると検索を実行し、一覧内の該当文字列が反転表示されます。
[置換]タブをクリックすると「置換の文字列」の入力欄が表示されます。
[閉じる]をクリックすると処理を終了します。

● 文字列を置換する

1 [置換]を選択すると、さらに置換用のダイアログボックスが表示されます。
「レイヤ名」、「レイヤコメント」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「大文字と小文字を区別する」チェックボックスをオンにした場合、大文字と小文字を区別して検索します。

「検索する文字列」、「置換後の文字列」には、文字列をキーボードから入力します。



- 2 [置換]をクリックすると、検索した文字列を置換後の文字列に置換されます。
[次を検索]をクリックすると、置換を実行せず次の該当文字列が反転表示されます。
[すべて置換]をクリックすると、該当文字列をすべて置換します。
[閉じる]をクリックすると、処理を終了します。

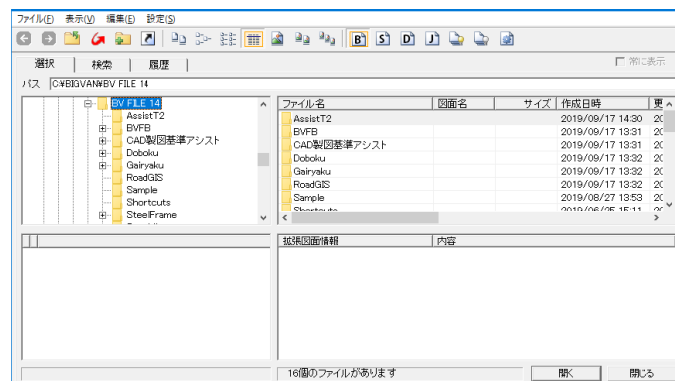
● 初期化する

- 1 [初期化]をクリックすると初期化されます。

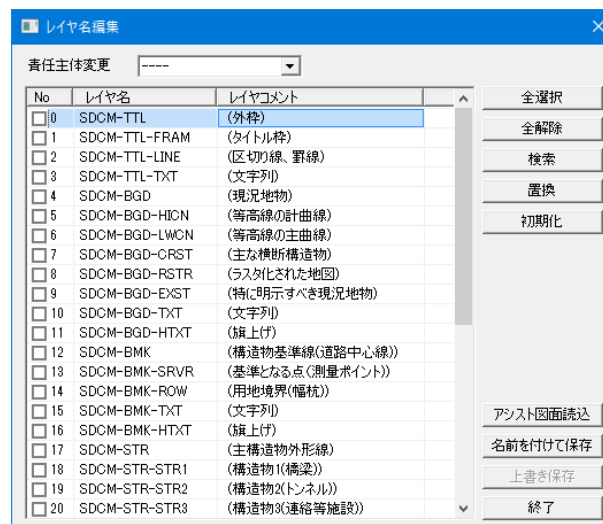
● レイヤコメントを付加する

他の図面ファイルのレイヤコメントを付加します。

- 1 右クリックで表示されるポップアップメニューから[レイヤコメント付加]を選択すると、BV Finder が表示されますので、レイヤコメントを読み込む図面ファイルを選択し[開く]をクリックします。

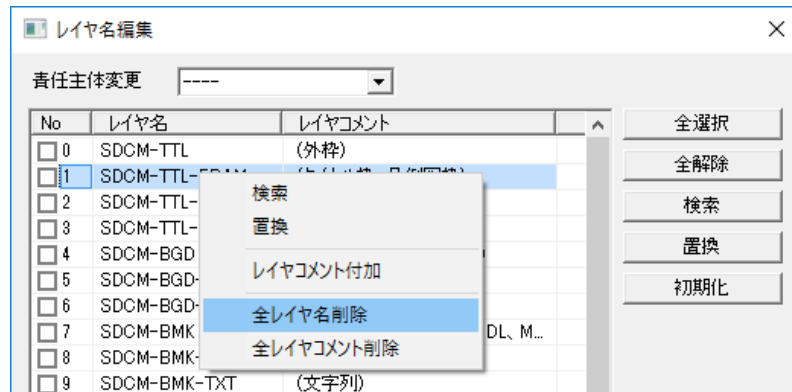


- 2 選択した処理が実行されます。

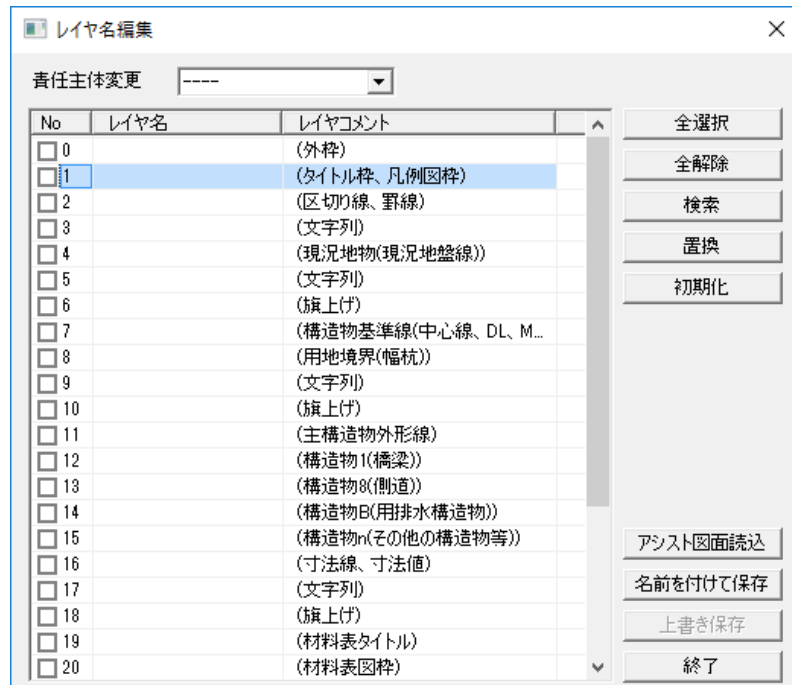


● 文字列を削除する

- 1 レイヤ情報内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
「全レイヤ名削除」を選択します。



↓ [全レイヤ名]



- 2 選択した処理が実行されます。
[全レイヤコメント削除]を選択した場合は全レイヤコメントを削除します。

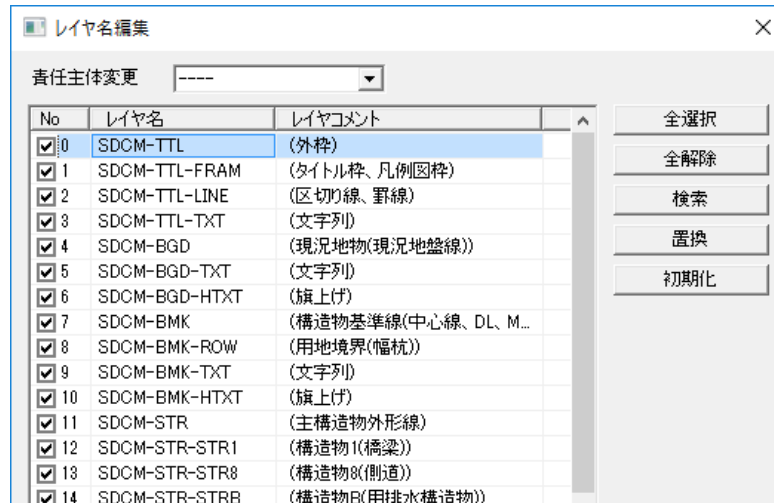
2.2.6. 責任主体の変更

● 解説

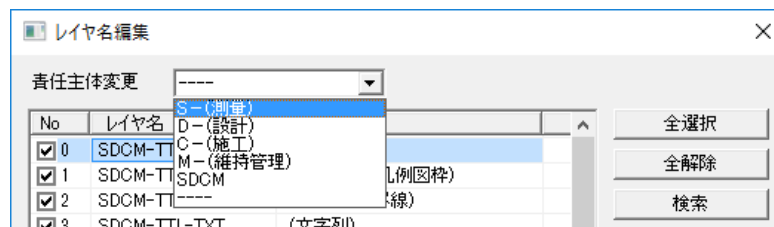
レイヤ名の責任主体を変更します。ただし、レイヤ名に “-” (ハイフン) がある場合のみ変更できます。

● 責任主体を編集する

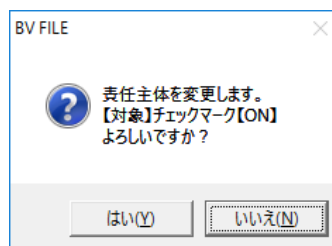
- 1 責任主体を変更したいレイヤを選択します。
[全選択] 全レイヤを選択することができます。
[全解除] 全レイヤの選択を解除することができます。



2 責任主体変更ドロップダウンリストから S、D、C、M、SDCM レイヤ名のライフサイクルをいずれかに変更します。

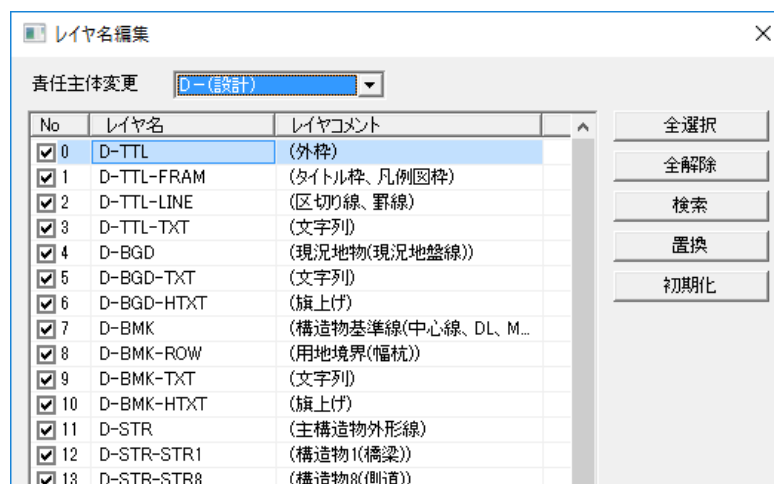


3 確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、処理が実行されます。

[いいえ]をクリックすると、レイヤ名編集に戻ります。



2.3. CAD製図基準レイヤ振り分け

既存図面をCAD製図基準に沿って、または既にレイヤ振り分けされている図面に沿ってレイヤ振り分けを行います。

本機能はCAD製図基準アシストオプションと併用して動作するものです。

CAD製図基準アシストの各図面にはユーザーファンクションが定義されていますが、この定義はユーザーファンクションウィザードによって自由に編集することができます。（BV CAD/L Tを除く）

この各図面のユーザーファンクションの定義を使って、各レイヤのデータがこの定義（線色、線種、線幅）の通りになるようにデータを編集します。

また、レイヤ名については各図面のレイヤ名をそのまま使用しますので、レイヤ名をユーザーが自由に変更した場合にはそのレイヤ名に編集されます。編集時に変更する情報は、1. レイヤ、2. 線色、線種、線幅、3. 文字高 です。

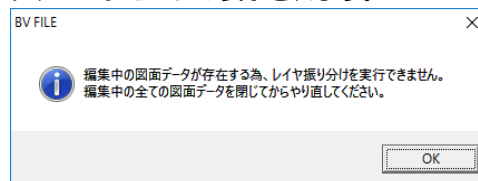
これ以外の情報は、CADシステムの標準機能で編集を行ってください。

ただし、1枚の図面上に2種以上のCAD製図基準図面を載せることはできませんので、この場合は2枚の図面をレイヤー括移動した後に合成するようにしてください。

- ・ 図面が開いている場合は、すべてCADシステムで保存しておいてください。
- ・ 本処理は、ダイアログボックスの上から順にボタンをクリックして、各処理を実行してください。

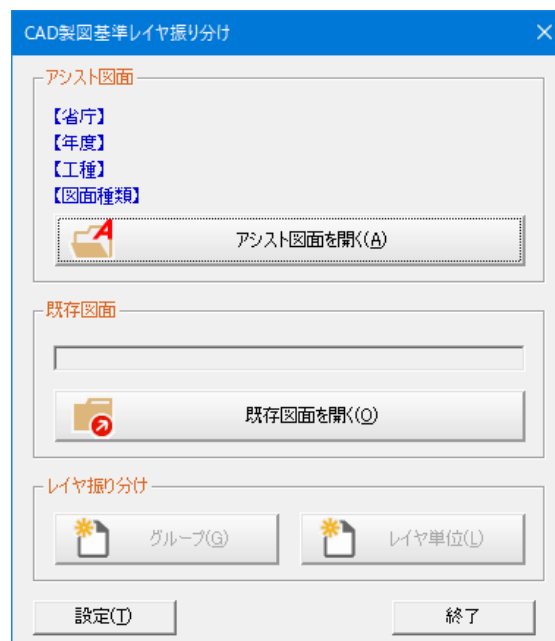
2.3.1. CAD製図基準レイヤ振り分けの基本操作

- 1 メニューバーの [システム]-[オプション]-[CAD製図基準アシスト 2]- [レイヤ振り分け] をクリックします。
現在開かれている図面がある場合は、以下のメッセージが表示されます。



[OK] をクリックして、編集中の全ての図面データを閉じてやり直してください。

「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスで各種の処理を行います。



- 2 処理終了後は[終了] をクリックします。

<以下、それぞれのレイヤ振り分け処理について説明します。>

2.3.2. CAD製図基準レイヤ振り分け

1 アシスト図面を開く

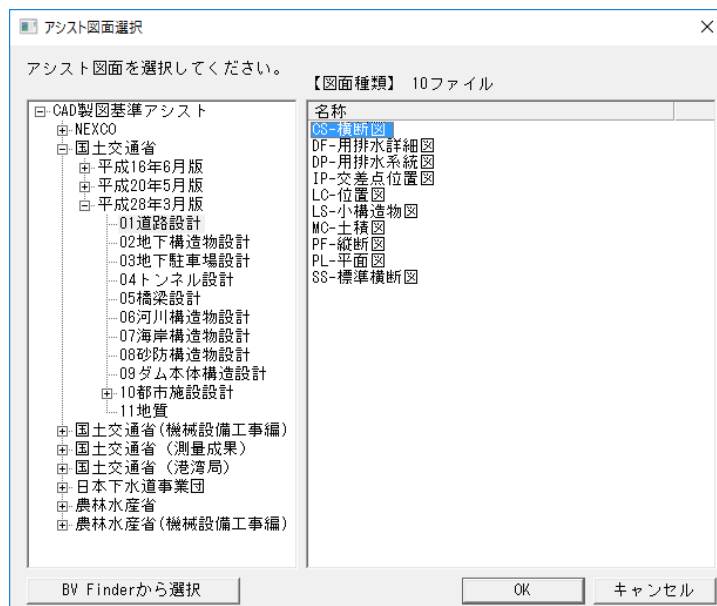
「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスで[アシスト図面を開く]をクリックすると、「アシスト図面選択」が表示されますのでアシスト図面を選択してください。また、[BV Finder から選択]を選択すると、BV Finder が表示されますので、図面ファイル(.BVF)を1枚選択して、開きます。

BV Finder で開いたフォルダは保持され、次回同じフォルダを開くようになります。

この図面に既存図面のデータを図面間移動してレイヤ振り分けをすることになります。

[OK]をクリックすると、アシスト図面が開き、再度「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスが表示されます。

また、既存図面から開くことも可能です。



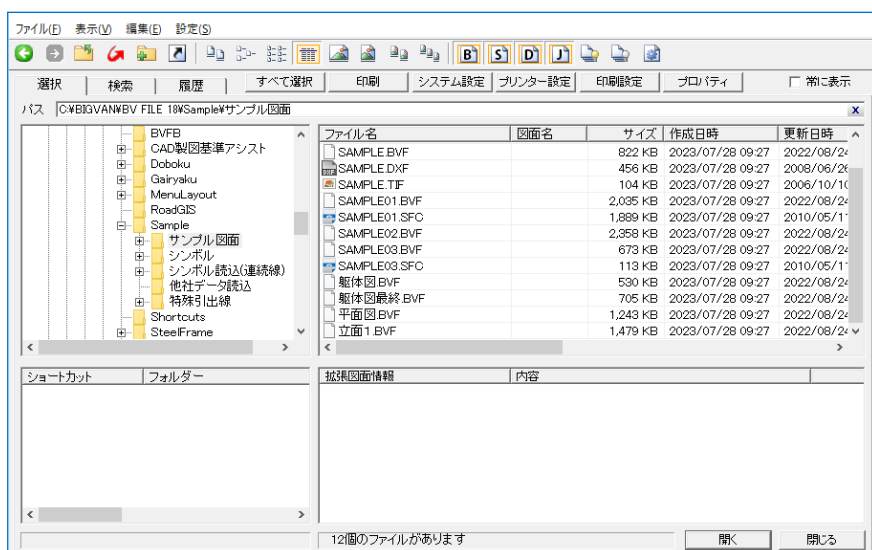
2 既存図面を開く

[既存図面を開く]をクリックするとBV Finder が開きますので、レイヤ振り分けする既存図面を読み込みます。

既存図面として読み込めるファイルの形式は、BVF、DXF、DWG、JWC、JWW、SFC、P21、SFZ、P2Z です。

続けて「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。完成図面を保存する保存先とファイル名を指定し、[保存]をクリックします。現在開かれているアシスト図面に名前を付けて保存します。

保存するファイル名は既存図面と違うファイル名にしてください。



3 完成図面の設定

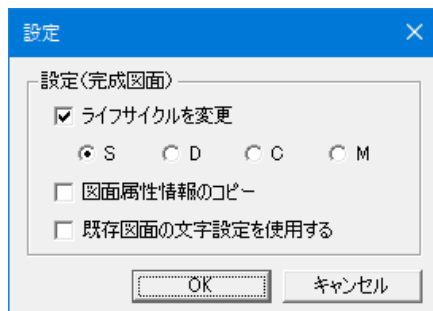
「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスに戻りますので、完成図面の各種設定を行います。

[設定]をクリックすると、「設定」ダイアログボックスが表示されます。

「ライフサイクルを変更」のチェックマークをオンにして、いずれかの頭文字のラジオボタンをクリックします。

オフの場合は、既存図面のライフサイクルが付加されます(アシスト図面とレイヤ名が同じ場合に限る)。

「図面属性情報のコピー」チェックマークをオンにすると、既存図面(.BVF)のタイトル・サブタイトルなどの図面属性情報をアシスト図面にコピーします。「既存図面の文字設定を使用する」チェックマークをオンすると、完成図面で既存図面(.BVF)の文字設定を使用します。



4 レイヤ振り分け

「グループ」または「レイヤ単位」のどちらかの方法でレイヤ振り分けを行います。

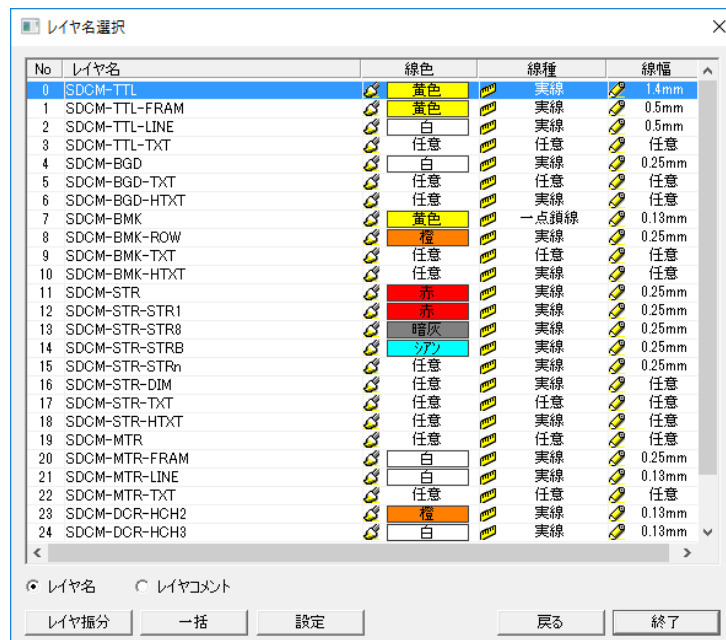
選択した方法で各ダイアログボックスが表示されます。

グループ → **5** へ。

レイヤ単位 → **9** へ。

5 レイヤ振り分け（グループ）

「グループ」をクリックすると、「レイヤ名選択」ダイアログボックスが表示されます。

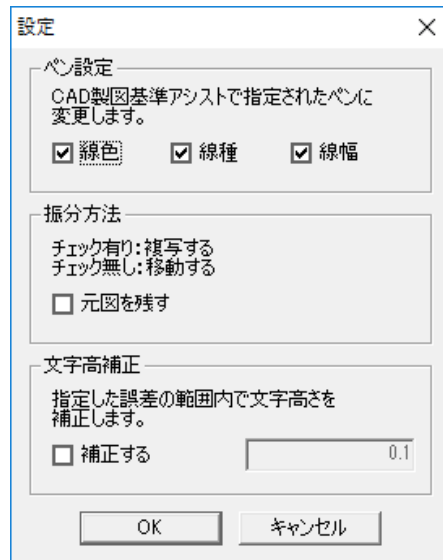


[設定]をクリックすると、「設定」ダイアログボックスが表示されます。

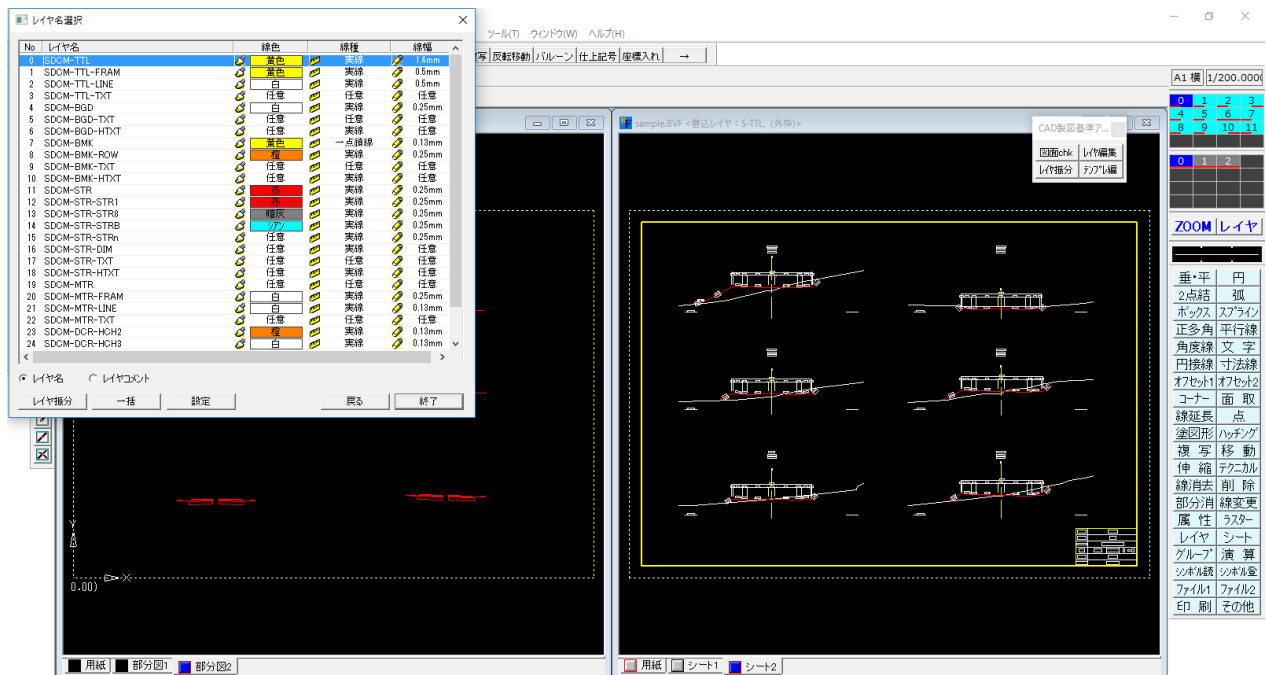
ペン設定 : 線色、線種、線幅のチェックマークをオンにすると、CAD製図基準アシストで決められたペンに変更されます。

振分方法 : 元図を残すチェックマークをオンにすると元図を複写し、オフにすると元図を移動します。

文字高補正 : 補正するチェックマークをオンにすると、その誤差の範囲内で文字高さを補正します。



- 6** [一括] をクリックすると既存図面と完成図面が同じレイヤ名を判断して、そのレイヤの要素を既存図面から完成図面へ図面間移動します。同じレイヤ名の判断はレイヤ名先頭の“責任主体” + “- (ハイフン)”を除いて行います。[戻る] をクリックすると、「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスに戻ります。



- 7** [レイヤ振り分け] をクリックして、[一括] で振り分けされなかった要素の振り分けを行います。
 振り分けしたいレイヤを選択し、[レイヤ振り分け] をクリックします。
 既存図面上の図形をグループ化して、[OK] をクリックすると、選択したレイヤに図面間移動します。
 但し、[設定] で「元図を残す」チェックボックスをオンにすると図面間複写になります。
 上記の作業を続けてレイヤ振り分けを行います。
 また、文字高補正のチェックボックスをオンにすると、振り分ける図形に文字があった場合、文字高を指定した範囲で補正します。

- 8 レイヤ振り分けが終わったら「終了」をクリックすると、確認のメッセージが表示されますので、よければ[はい]をクリックします。完成図面の保存確認のメッセージが表示されますので、保存する場合は[はい]をクリックします。「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックス表示に戻ります。同時に元図も閉じます。

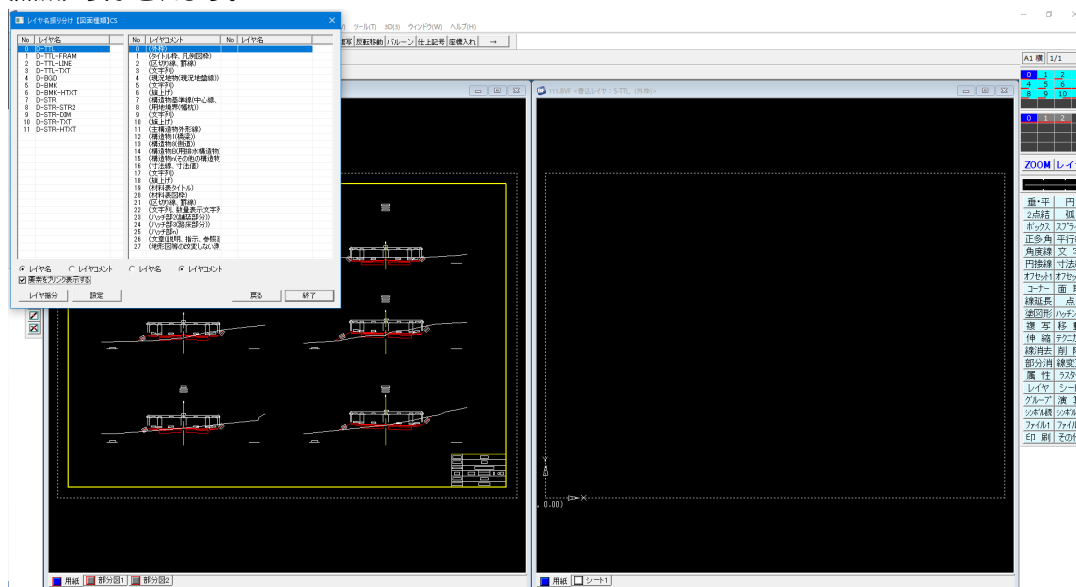
・ 既存図面と同じシート設定（配置座標、傾き、縦横縮尺、座標系）のシートを完成図面の移動先シートとし、シートがない場合は同じ設定のシートを自動で追加します。

9 レイヤ振り分け（レイヤ単位）

「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックスの[レイヤ単位]をクリックすると、「レイヤ名振り分け」ダイアログボックスが表示されます。

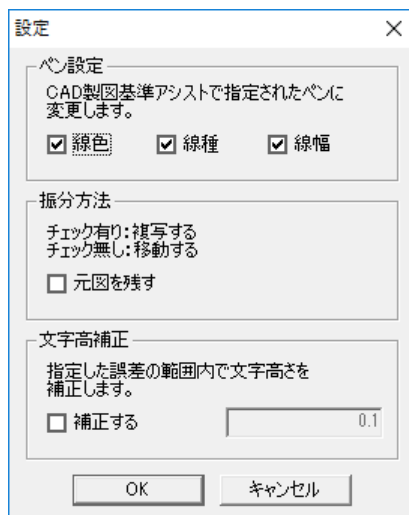


レイヤ名でマウスボタンを押し、既存レイヤ名一覧内へドラッグすることにより、レイヤの振り分けが行われます。既存図面と完成図面で「レイヤ名」、「レイヤコメント」いずれかのラジオボタンを選択すると、それぞれの図面のレイヤ表示が切り替わります。「要素をブリンク表示する」チェックマークをオンにすると、製図画面上で選択したレイヤがブリンク（点滅）表示されます。



設定

「設定」をクリックすると、「レイヤ振り分け（グループ）」と同様、「設定」ダイアログボックスが表示されます。



[OK]をクリックすると「レイヤ名振り分け」ダイアログボックスに戻ります。

「レイヤ名振り分け」ダイアログボックスで[レイヤ振分]をクリックすると、処理が実行されます。

- 10** 「レイヤ名振り分け」ダイアログボックスで[終了]をクリックすると、確認のメッセージが表示されますので、よければ[はい]をクリックします。完成図面の保存確認のメッセージが表示されますので、保存する場合は[はい]をクリックします。「CAD製図基準レイヤ振り分け」ダイアログボックス表示に戻ります。同時に元図も閉じます。

2.4. テンプレート編集

ユーザーファンクションウィザードまたは、ユーザーファンクションエディターを使用してアシスト図面を編集するより簡単に、CAD製図基準専用の編集ツールによりアシスト図面を編集することができます。

2.4.1. 「テンプレート編集」ダイアログボックスの基本操作

- メニューバーの[システム]-[オプション]-[CAD製図基準アシストT2]-[テンプレート編集]をクリックします。
「テンプレート編集」ダイアログボックスが表示されます。

No	レイヤ名	レイヤコメント	UFポタ名称	線色	線種	線幅
0	SDCM-TTL	(外枠)	外枠	黄色	実線	1.4mm
1	SDCM-TTL-FRAM	(タイトル枠、凡例図枠)	タイトル枠、凡例図枠	黄色	実線	0.5mm
2	SDCM-TTL-LINE	(区切り線、罫線)	区切り線、罫線	白	実線	0.5mm
3	SDCM-TTL-TXT	(文字列)	文字列	白	任意	任意
4	SDCM-BSD	(現況地物(現況地盤線))	現況地物(現況地盤線)	白	実線	0.25mm
5	SDCM-BSD-TXT	(文字列)	現況文字(文字列)	白	任意	任意
6	SDCM-BSD-HTXT	(旗上げ)	現況旗上(旗上げ)	白	実線	任意
7	SDCM-BMK	(構造物基準線(中心線、用地境界(幅枕))	構造物基準線(中心線、用地境界(幅枕))	黄色	一点鎖線	0.13mm
8	SDCM-BMK-ROW	(用地境界(幅枕))	用地境界(幅枕)	緑	実線	0.25mm
9	SDCM-BMK-TXT	(文字列)	基準文字(文字列)	白	任意	任意
10	SDCM-BMK-HTXT	(旗上げ)	基準旗上(旗上げ)	白	実線	任意
11	SDCM-STR	(主構造物外形線)	主構造物外形(主構造物外形線)	赤	実線	0.25mm
12	SDCM-STR-STR1	(構造物1(橋梁))	構1 橋梁(構造物1(橋梁))	赤	実線	0.25mm
13	SDCM-STR-STR8	(構造物8(側道))	構8 側道(構造物8(側道))	暗灰	実線	0.25mm
14	SDCM-STR-STRB	(構造物B(用排水構造物))	構B 水構(構造物B(用排水構造物))	シアン	実線	0.25mm
15	SDCM-STR-STRn	(構造物n(その他の構造物))	構造物n(その他の構造物等)	任意	実線	0.25mm
16	SDCM-STR-DIM	(寸法線、寸法値)	主構寸法(寸法線、寸法値)	白	実線	任意
17	SDCM-STR-TXT	(文字列)	主構文字(文字列)	白	任意	任意
18	SDCM-STR-HTXT	(旗上げ)	主構旗上(旗上げ)	白	実線	任意
19	SDCM-MTR	(材料表タイトル)	材料表タイトル	白	任意	任意
20	SDCM-MTR-FRAM	(材料表図枠)	材料図枠(材料表図枠)	白	実線	0.25mm
21	SDCM-MTR-LINE	(区切り線、罫線)	材料区切り(区切り線、罫線)	白	実線	0.13mm
22	SDCM-MTR-TXT	(文字列、数量表示文字)	材料文字(文字列、数量表示)	白	任意	任意
23	SDCM-DCR-HCH2	(ハッチ部2(補註部分))	ハッチ部2(補註部分)	緑	実線	0.13mm

2 レイヤ順の変更

順序を入れ替えたいレイヤを選択し、▲▼ボタンをクリックすることにより、上下を入れ替えることができます。

No	レイヤ名	レイヤコメント	UFポタ名称	線色	線種	線幅
10	SDCM-BMK-HTXT	(旗上げ)	基準旗上(旗上げ)	白	実線	任意
11	SDCM-STR	(主構造物外形線)	主構造物外形(主構造物外形線)	赤	実線	0.25mm
12	SDCM-STR-STR1	(構造物1(橋梁))	構1 橋梁(構造物1(橋梁))	赤	実線	0.25mm
13	SDCM-STR-STR8	(構造物8(側道))	構8 側道(構造物8(側道))	暗灰	実線	0.25mm
14	SDCM-STR-STRB	(構造物B(用排水構造物))	構B 水構(構造物B(用排水構造物))	シアン	実線	0.25mm
15	SDCM-STR-STRn	(構造物n(その他の構造物))	構造物n(その他の構造物等)	任意	実線	0.25mm
16	SDCM-STR-DIM	(寸法線、寸法値)	主構寸法(寸法線、寸法値)	白	実線	任意
17	SDCM-STR-TXT	(文字列)	主構文字(文字列)	白	任意	任意
18	SDCM-STR-HTXT	(旗上げ)	主構旗上(旗上げ)	白	実線	任意
19	SDCM-MTR	(材料表タイトル)	材料表タイトル	白	任意	任意
20	SDCM-MTR-FRAM	(材料表図枠)	材料図枠(材料表図枠)	白	実線	0.25mm
21	SDCM-MTR-LINE	(区切り線、罫線)	材料区切り(区切り線、罫線)	白	実線	0.13mm
22	SDCM-MTR-TXT	(文字列、数量表示文字)	材料文字(文字列、数量表示)	白	任意	任意
23	SDCM-DCR-HCH2	(ハッチ部2(補註部分))	ハッチ部2(補註部分)	緑	実線	0.13mm

↓ ▼ をクリック

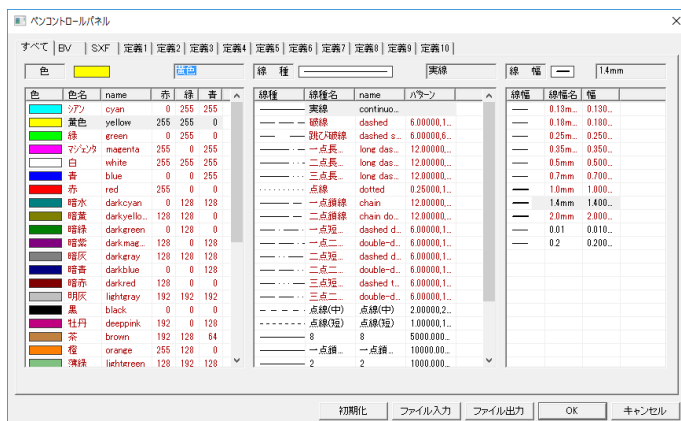
No	レイヤ名	レイヤコメント	UFポタ名称	線色	線種	線幅
9	SDCM-BMK-TXT	(文字列)	基準文字(文字列)	白	任意	任意
10	SDCM-BMK-HTXT	(旗上げ)	基準旗上(旗上げ)	白	実線	任意
11	SDCM-STR	(主構造物外形線)	主構造物外形(主構造物外形線)	赤	実線	0.25mm
12	SDCM-STR-STR1	(構造物1(橋梁))	構1 橋梁(構造物1(橋梁))	赤	実線	0.25mm
13	SDCM-STR-STR8	(構造物8(側道))	構8 側道(構造物8(側道))	暗灰	実線	0.25mm
14	SDCM-STR-STRB	(構造物B(用排水構造物))	構B 水構(構造物B(用排水構造物))	シアン	実線	0.25mm
15	SDCM-STR-STRn	(構造物n(その他の構造物))	構造物n(その他の構造物等)	任意	実線	0.25mm
16	SDCM-STR-DIM	(寸法線、寸法値)	主構寸法(寸法線、寸法値)	白	実線	任意
17	SDCM-STR-TXT	(文字列)	主構文字(文字列)	白	任意	任意
18	SDCM-STR-HTXT	(旗上げ)	主構旗上(旗上げ)	白	実線	任意
19	SDCM-MTR	(材料表タイトル)	材料表タイトル	白	任意	任意
20	SDCM-MTR-LINE	(区切り線、罫線)	材料区切り(区切り線、罫線)	白	実線	0.13mm
21	SDCM-MTR-FRAM	(材料表図枠)	材料図枠(材料表図枠)	白	実線	0.25mm
22	SDCM-MTR-TXT	(文字列、数量表示文字)	材料文字(文字列、数量表示)	白	任意	任意
23	SDCM-DCR-HCH2	(ハッチ部2(補註部分))	ハッチ部2(補註部分)	緑	実線	0.13mm

3 レイヤ名・内容・UFボタン名称の編集

「テンプレート編集」ダイアログボックス内の一覧内でマウスの左ボタンをダブルクリックすると、文字列の編集モードとなりますので、キーボードより文字列を入力して編集します。

4 線色・線種・線幅の編集

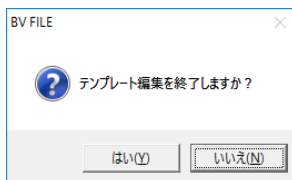
線色・線種・線幅の項目一覧内でダブルクリックすると、「ペンコントロール」ダイアログボックスが表示されます。



5 図面ファイルの保存

[名前を付けて保存]または[上書き保存]をクリックすると、図面ファイルを保存できます。

6 [終了]をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると処理を取り消してテンプレート編集処理を終了します。 [いいえ]をクリックすると「テンプレート編集」ダイアログボックスに戻ります。

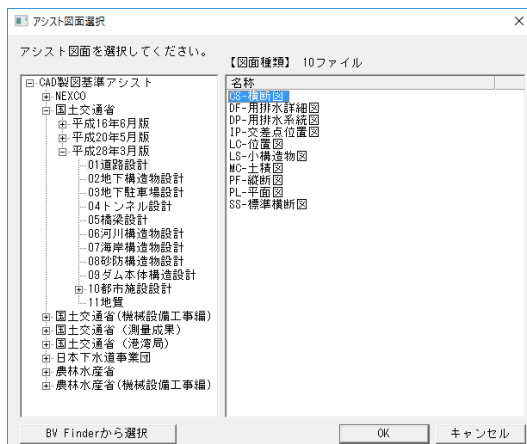
2.4.2. 図面ファイルを開く

● 解説

テンプレート編集処理を行う図面ファイルを選択します。

● 操作方法

1 [アシスト図面読込]を選択すると、「アシスト図面選択」ダイアログボックスが表示されます。



2 テンプレート編集対象の図面ファイルを選択し[OK]をクリックすると、「テンプレート編集」ダイアログボックスに戻ります。

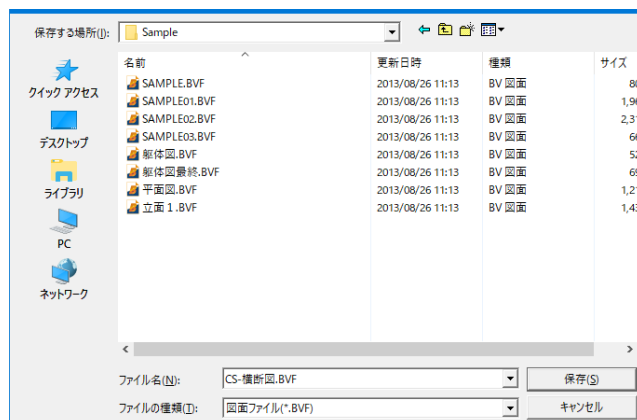
2.4.3. 名前を付けて図面を保存する

● 解説

テンプレート編集処理を行った図面ファイルを他の名前を付けて保存します。

● 操作方法

- 1 [名前を付けて保存]を選択すると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 図面ファイル名を入力し[保存]をクリックすると、「テンプレート編集」ダイアログボックスに戻ります。

2.4.4. 上書き保存する

● 解説

テンプレート編集処理を行った図面ファイルを上書き保存します。

オリジナルのアシスト図面の場合は上書き保存できません。

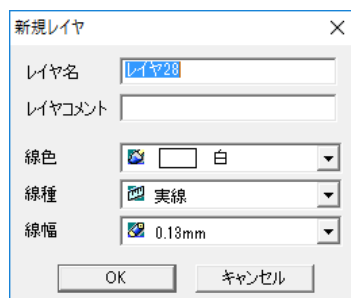
● 操作方法

- 1 [上書き保存]をクリックすると、テンプレート編集処理を行った図面ファイルを上書き保存します。

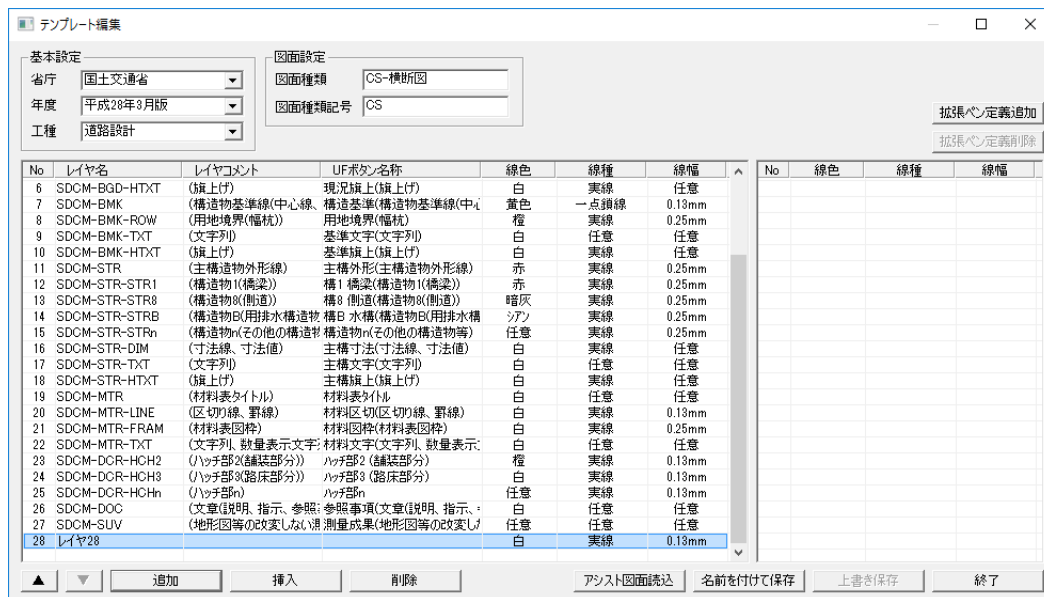
2.4.5. レイヤの追加／挿入／削除

● レイヤの追加

- 1 「テンプレート編集」ダイアログボックスで[追加]をクリックすると、「新規レイヤ」ダイアログボックスが表示されます。新規レイヤの設定をします。

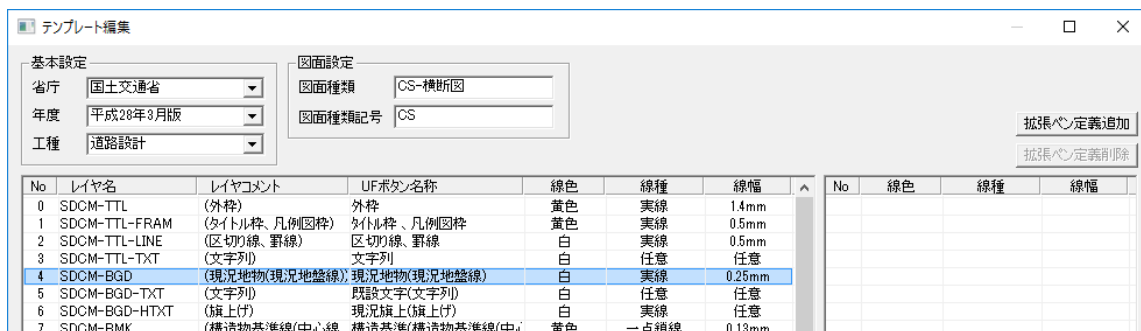


2 [OK]をクリックすると、レイヤ番号の最後にレイヤが追加されます。

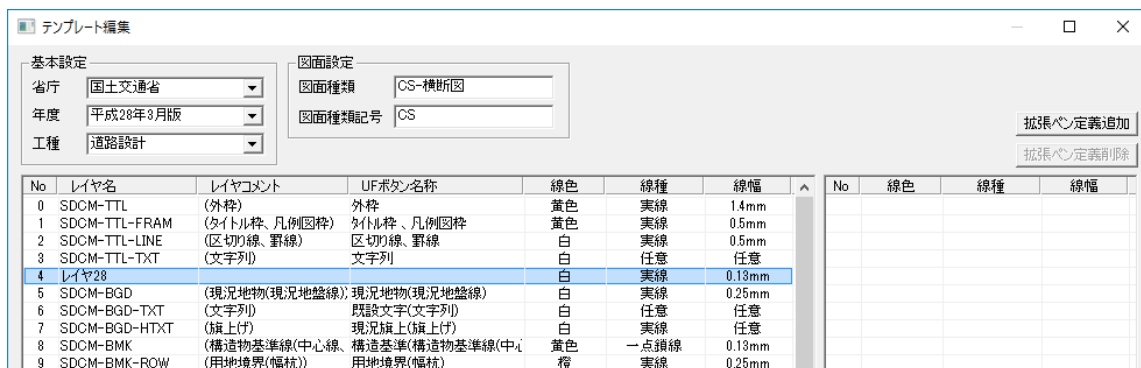


● レイヤの挿入

- 1 「テンプレート編集」ダイアログボックスで[挿入]をクリックすると、「新規レイヤ」ダイアログボックスが表示されます。新規レイヤの設定をして、[OK] をクリックするとカーソル位置にレイヤが追加されます。

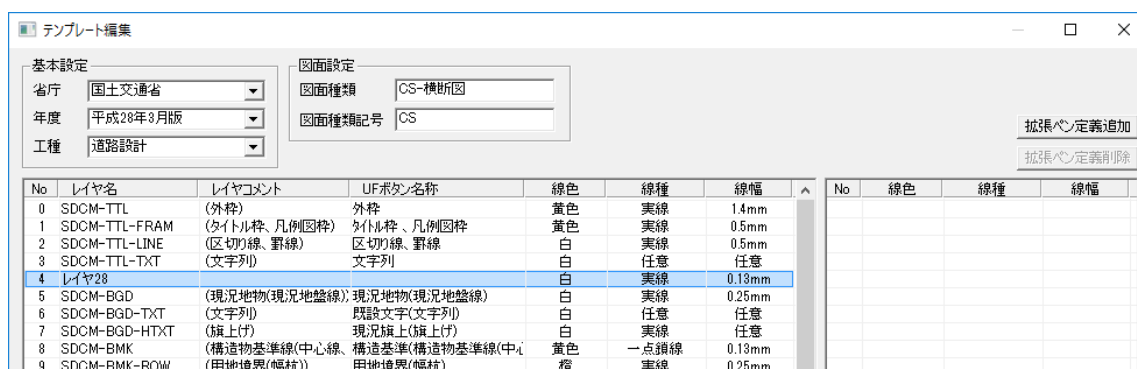


↓ [レイヤ挿入]

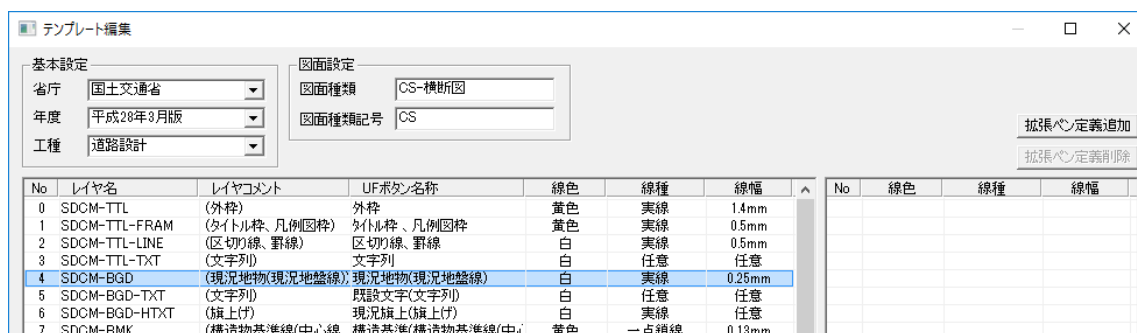


● レイヤの削除

- 1 「テンプレート編集」ダイアログボックスで[削除]をクリックすると、カーソル位置のレイヤが削除されます。



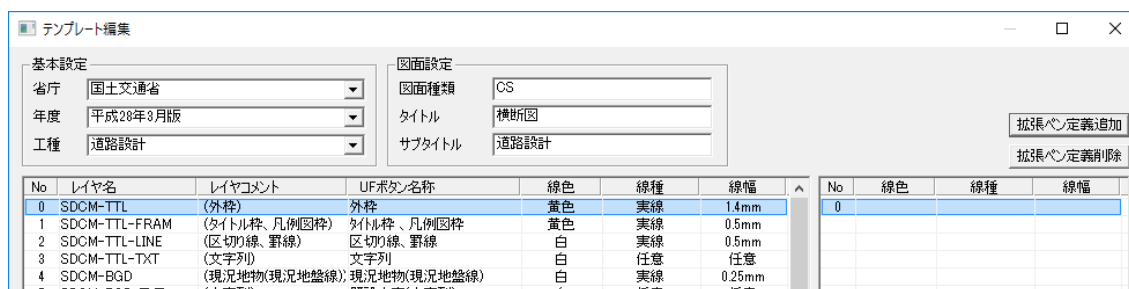
↓ [レイヤ削除]



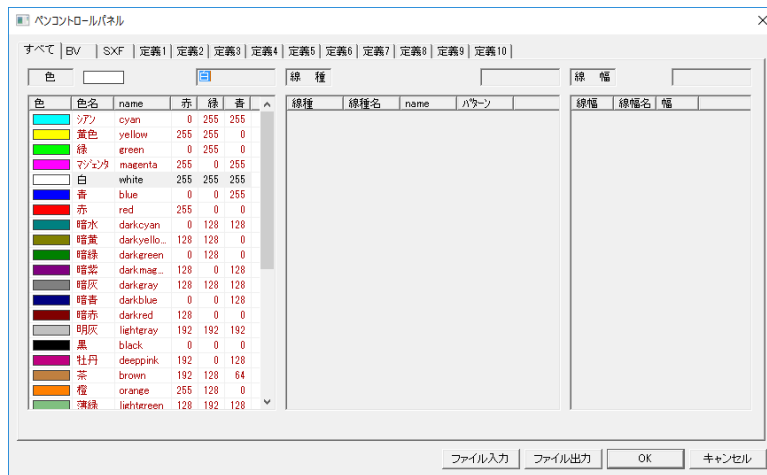
2. 4. 6. 拡張ペン定義の追加／削除

● 拡張ペン定義の追加

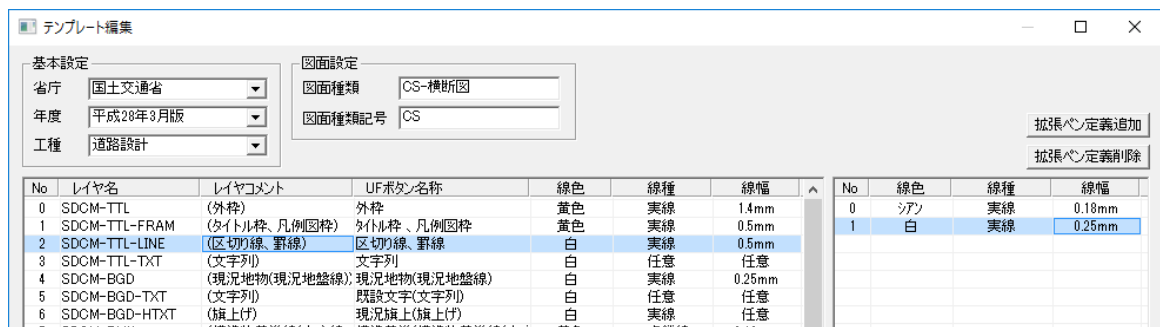
- 1 「テンプレート編集」ダイアログボックスで[拡張ペン定義追加]をクリックすると、カーソル位置のペン定義が1行ずつ追加されます。



- 2 右の拡張ペン定義部分の線色、線種、線幅でクリックすると、ペンコントロールパネルが表示されますので、選択して[OK]をクリックします。

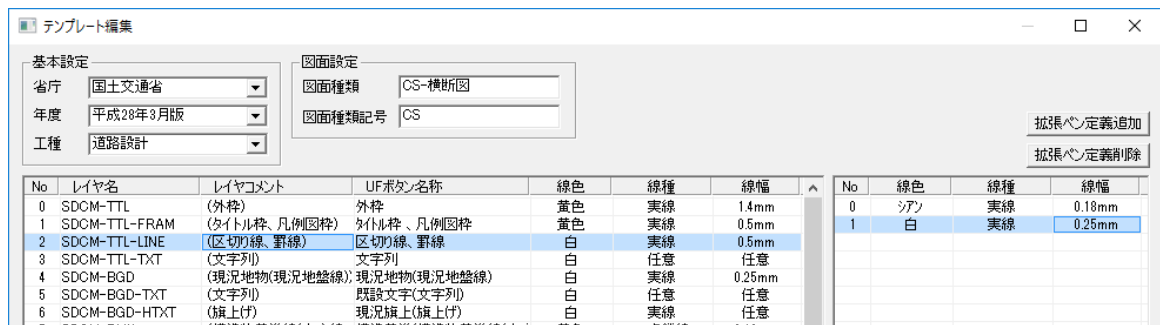


3 拡張ペン定義が設定されます。

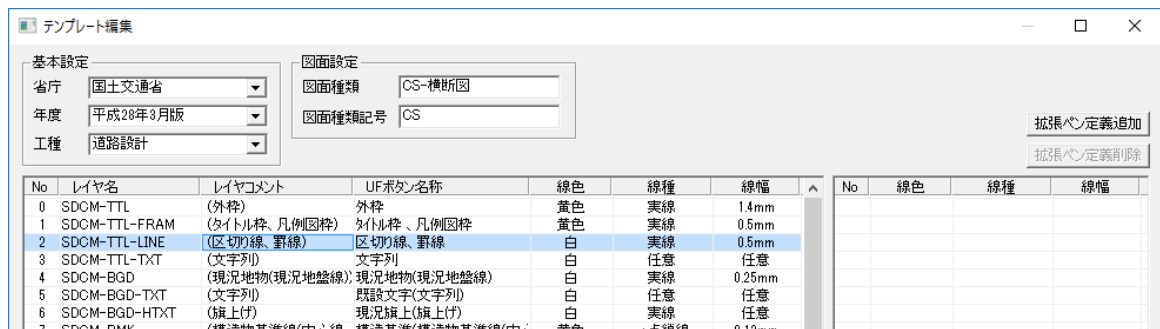


● 拡張ペン定義の削除

- 1 「テンプレート編集」ダイアログボックスで[拡張ペン定義削除]をクリックすると、カーソル位置のペン定義が1行ずつ削除されます。



↓ [拡張ペン定義削除]



2.5. レイヤリスト作成

2.5.1. レイヤリストの基本操作

● 解説

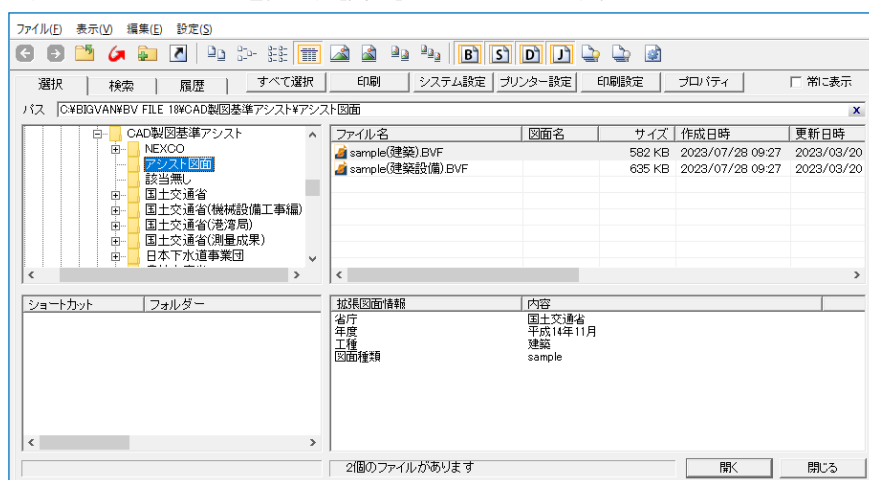
CAD図面のレイヤ名、レイヤコメント（BVF のみ）と使用している線種、線色、線幅からレイヤリストを作成します。

● 操作方法

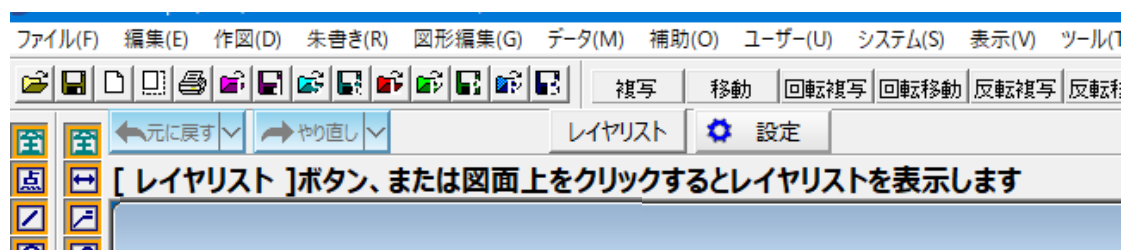
1 図面ファイルの選択

[ファイル]－[開く]を選択すると、BV Finder が表示されます。

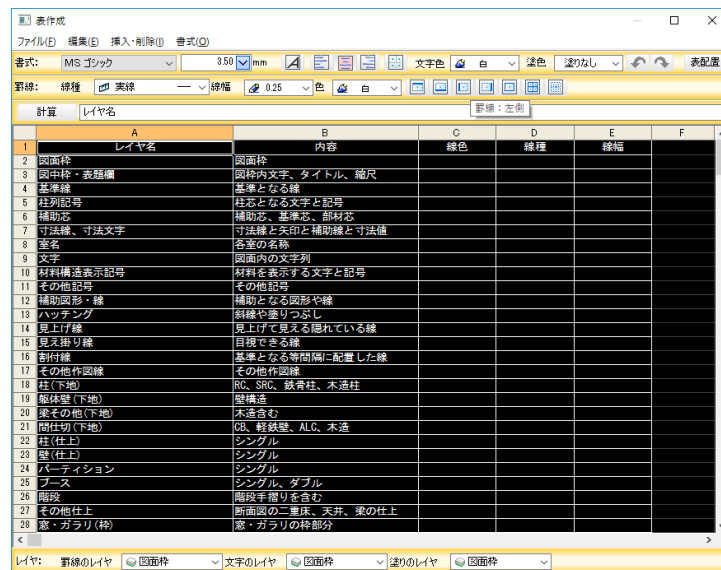
レイヤリストを作成する図面ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



2 [システム]－[オプション]－[CAD製図基準アシストT2]－[レイヤリスト]を選択すると、サブメニューに「レイヤリスト」が表示されます。

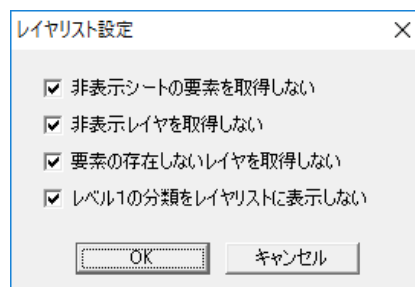


3 「レイヤリスト」をクリックすると「表作成」ダイアログボックス内にレイヤ情報が表示されます。「表作成」ダイアログボックスでプルダウンメニューをクリックし、いずれかの機能を選択します。



4 レイヤリスト設定

サブメニュー欄の[設定]をクリックすると各種設定を行うことができます。
レイヤリストに取得する情報を設定します。



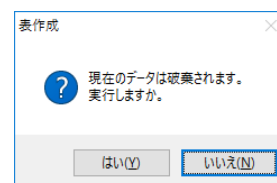
<以下、「表作成」ダイアログボックスの一部の機能を説明します。>

2.5.2. インポート・エクスポート

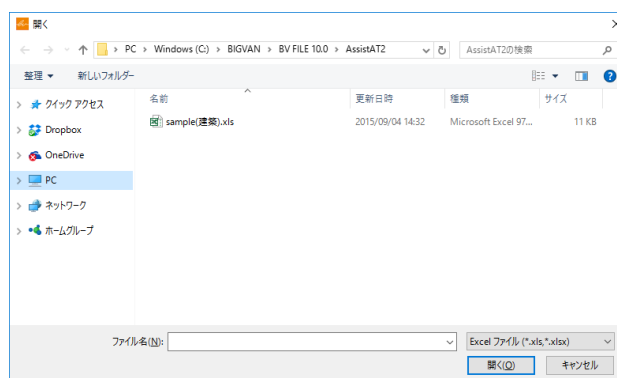
「表作成」ダイアログボックスの[ファイル]メニューから、インポート・エクスポートを実行します。

● インポートする

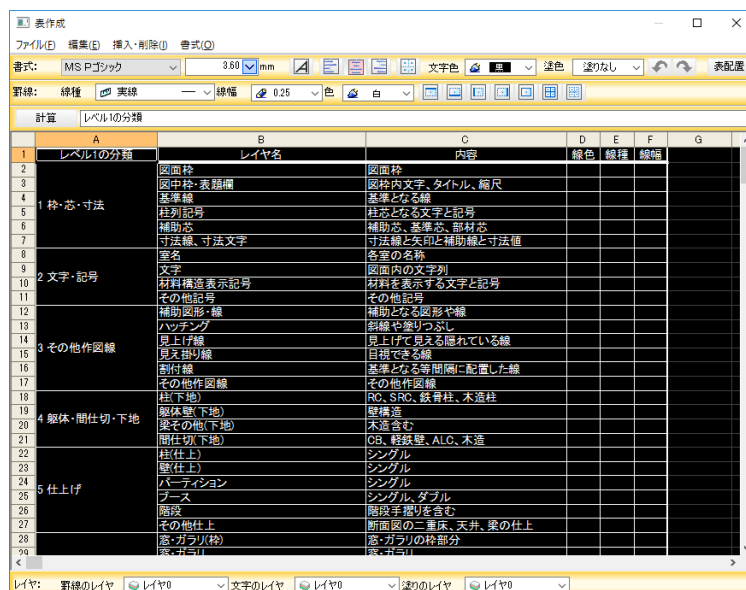
- 1 「表作成」ダイアログボックスで[ファイル]－[インポート]を選択すると、確認メッセージが表示されます。
[はい]をクリックすると、現在のデータを破棄して「開く」ダイアログボックスが表示します。
[いいえ]をクリックすると、「表作成」ダイアログボックスに戻ります。



- 2 「開く」ダイアログボックスでファイルを選択し、[開く]をクリックします。
読み込むEXCELファイルのシートが複数ある場合は、「シート選択」ダイアログボックスが表示されます。
ドロップダウンリストより読み込むシートを選択し、[OK]をクリックします。

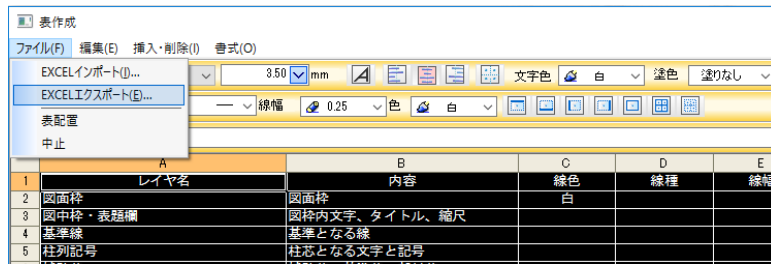


- 3 「表作成」ダイアログボックス内にEXCELファイルが読み込まれます。

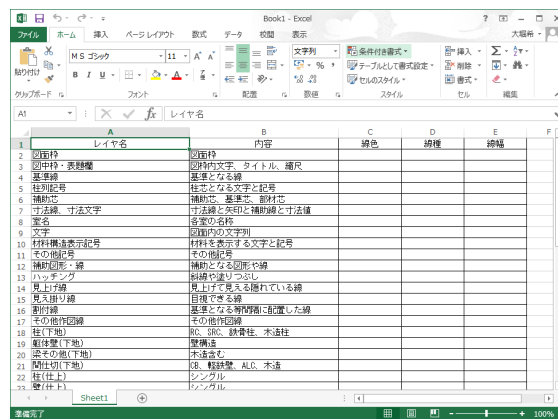


● レイヤリストをエクスポートする

- 1 「表作成」ダイアログボックスで[ファイル]－[エクスポート]をクリックすると、EXCELが起動します。



- 2 書き込みが終了するとMicrosoft EXCEL内にEXCELデータとして書き込まれます。
EXCEL上で各種の処理を行うことができます。
 - ・数値のセルは、標準書式でエクスポートします。

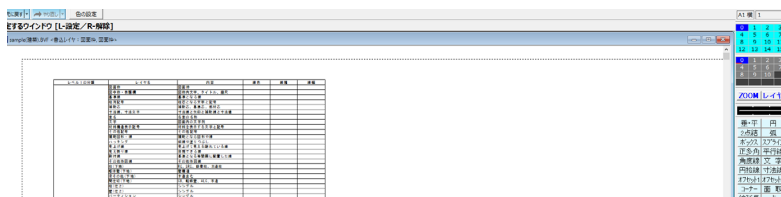


- 3 EXCEL上の処理を終了し、閉じて「表作成」ダイアログボックスに戻ります。

2.5.3. 表配置

● レイヤリストを配置する

- 1 「表作成」ダイアログボックスで[ファイル]－[表配置]を選択すると、製図画面内に表の仮想線がマウスの動きに合わせて表示されます。



配置基準点の選択

インフォバー内のドロップダウンリストよりいずれかの配置基準点を選択します。

- 2 マウスにて配置位置をクリックすると、図面内に表が貼り付けられます。

参 照 → リファレンスマニュアル「表を作成する」

2.6. ファイル名コンバート

2.6.1. 「ファイル名コンバート」ダイアログボックスの基本操作

● 解説

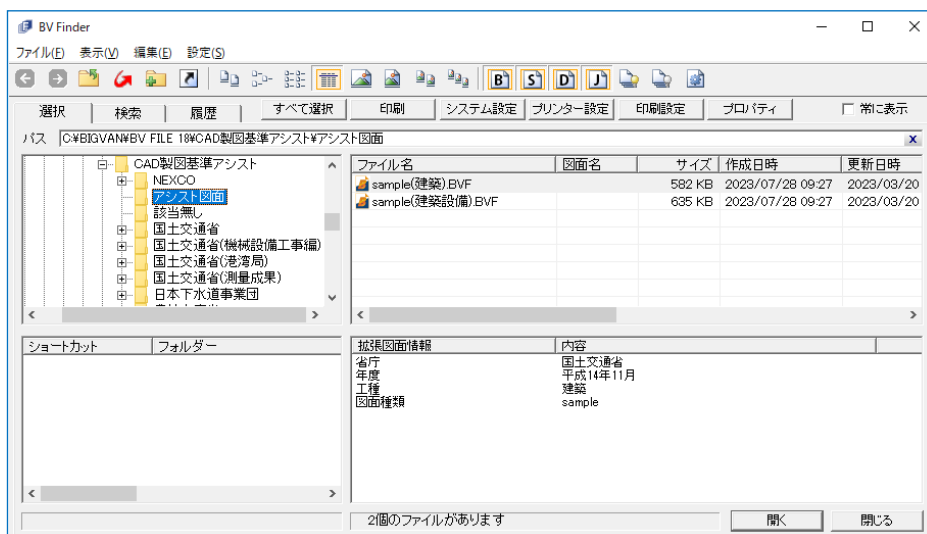
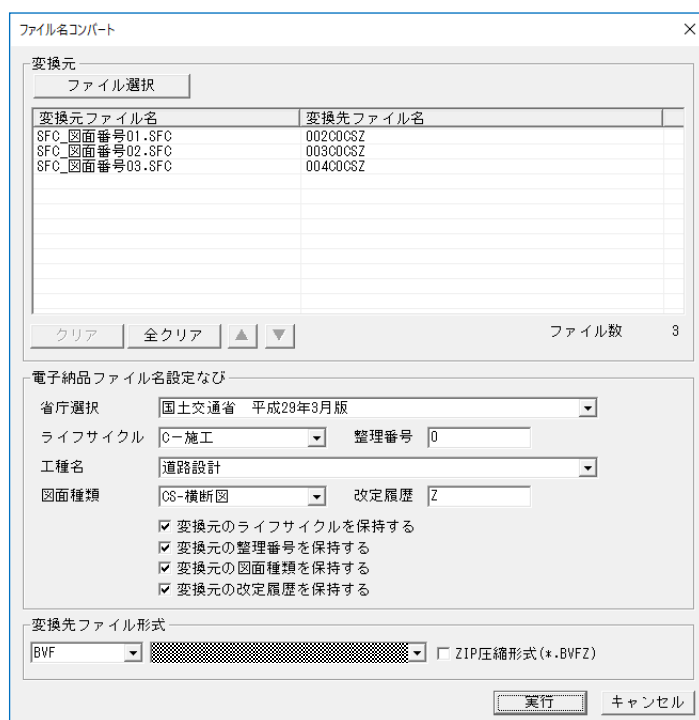
複数の図面を一括で電子納品用のファイル名に変更します。この操作はCADメインフレーム上に図面が開いている場合には機能しません。

● 操作方法

1 図面ファイルの選択

[ファイル選択]をクリックすると、BV Finderが表示されます。

ファイル名を変更したい図面ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



2 変換元リストに登録された図面ファイルを編集

「電子納品ファイル設定なび」の中で各項目の設定を行います。

変換元ファイル名	変換先ファイル名
SFC_図面番号01.SFC	00200CSZ
SFC_図面番号02.SFC	00300CSZ
SFC_図面番号03.SFC	00400CSZ

クリア 全クリア ▲ ▼ ファイル数 3

電子納品ファイル名設定なび

省庁選択: 国土交通省 平成29年3月版

ライフサイクル: C-施工 整理番号: 0

工種名: 道路設計

図面種類: CS-横断図 改定履歴: Z

☒ 変換元のライフサイクルを保持する
☒ 変換元の整理番号を保持する
☒ 変換元の図面種類を保持する
☒ 変換元の改定履歴を保持する

変換先ファイル形式: BVF ☐ ZIP圧縮形式(*.BVFZ)

実行 キャンセル

ファイル選択

名称を変更したいファイルを BV Finder から選択します。

クリア

変換元リストからファイルを削除します。

全クリア

変換元リストからすべてのファイルを削除します。

▲ボタン

ファイルを選択し、このボタンを押すと、そのファイルのリストの順序を一つ上げます。

▼ボタン

ファイルを選択し、このボタンを押すと、そのファイルのリストの順序を一つ下げます。

省庁選択

省庁および年度を選択します。工種名、図面種類と連動しています。

ライフサイクル

任意のライフサイクルを選択します。

整理番号

任意の整理番号を設定します。

工種名

任意の整理番号を設定します。※こちらの項目は省庁選択によって、リストが変わります。

図面種類

リストから名称を変更したいファイルに対応した種類を選択します。※こちらの項目は省庁選択によって、リストが変わります。

変換元のライフサイクルを保持する：変換元ファイル名に付けられているライフサイクルを維持します。

変換元の整理番号を保持する：変換元ファイル名に付けられている整理番号を維持します。

変換元の図面種類を保持する：変換元ファイル名に付けられている図面種類を維持します。

変換元の改訂履歴を保持する：変換元ファイル名に付けられている改訂履歴を維持します。

変換先ファイル形式

名称を変更したファイルのファイル形式を選択します。

BVF では、「ZIP 圧縮形式 (*.BVFZ)」にチェックを入れると、圧縮形式 BVFZ で出力できます。

SXF では、SFC、SFZ、P21、P2Z の中からファイル形式を選択し出力できます。

3. 資料編

3.1. エラーメッセージ解説

本オプションのエラーメッセージについて解説します。

CAD製図基準チェック結果画面のエラーと、CAD製図基準ファイル内チェック結果画面のエラーがあります。

〈CAD製図基準チェック結果画面エラー一覧〉

エラーコメント	内 容
すべてのシートの縮尺が1/1になっています。	図面内のシートの縮尺が全て1/1だった場合に出力されます。
図面枠に縮尺 1/1 以外が使用されています。	外枠のレイヤ(-TTL)が1つでも縮尺が1/1 以外の場合に出力されます。
不適合な内容を含んでいます。	図面内の要素データがCAD製図基準の指定通りで描かれていない場合に出力されます。
適合しています。	CAD製図基準の指定通りに描かれている場合に出力されます。
輪郭線が規定より外側に出ています。	外枠がCAD製図基準の指定よりも外に描かれている場合に出力されます。
外枠のレイヤがありません。	外枠が描かれるレイヤが存在しないときに出力されます。
外枠のレイヤに外枠がありません。	外枠のレイヤに要素が無い場合に出力されます。
用紙サイズが「用紙サイズ名」です。	用紙のサイズがCAD製図基準に設定されていないときに、この図面に設定されている用紙サイズ名が出力されます。
4種類以上の線幅が使われています。	外枠で使用されている線幅以外に4種類以上の線幅が使用されているときに出力されます。
線の太さが1：2：4の比率になっていません。	外枠で使用されている以外の線幅の比率が1：2：4になっていない場合に出力されます。
この図面には縦横異縮尺が使用されています。	縦横異縮尺の縮尺が使用されている場合に出力されます。

〈CAD製図基準ファイル内チェック結果画面エラー一覧〉

エラーコメント	内 容
「色名」が使用されています。	CAD製図基準で指定された色で描かれていない場合に、この要素で使用している色名が出力されます。
「線幅名」が使用されています。	CAD製図基準で指定された線幅で描かれていない場合に、この要素で使用している線幅名が出力されます。
「線種名」が使用されています。	CAD製図基準で指定された線種で描かれていない場合に、この要素で使用している線種名が出力されます。
不適合なレイヤ名です。	CAD製図基準で指定されたレイヤ名でないレイヤが存在した場合に出力されます。
横書き文字列[「文字列データ」]に文字の「種類名」があります。	CAD製図基準で指定された文字の種類でない文字が存在した場合に出力されます。
文字高さ「高さ数値」が使用されています。	CAD製図基準で指定された文字の高さ以外で描かれた文字が存在した場合に出力されます。
レイヤ名が使用されていません。	CAD製図基準で指定されたレイヤ名でこの図面で使用されなかったレイヤ名が出力されます。

Microsoft、MS、Windows は米国 Microsoft corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Windows11/Windows10 は米国 Microsoft Corporation の商標です。

その他、商品名は一般に各社の商標および登録商標です。

ご注意

- 1) 本ソフトウェアおよびマニュアルの内容を一部またはすべてを複製や改ざんすることを禁止します。
- 2) 製品作成には万全の注意を払っておりますが、内容に関して不備な点や誤りなどがございましたらご連絡ください。
なお、本製品をご使用になった結果について、いかなる場合も責任を負いかねますのでご了承ください。
- 3) 本ソフトウェアおよびマニュアルの内容に関して、将来予告なく変更することがあります。